

末日聖徒イエス・キリスト教会・2001年5月号

# リアホナ



# リアホナ



### 表紙

表紙——ホームレスの避難所の青少年に手を差し伸べている、リオデジャネイロのサブリナ・レイス(左)。

裏表紙——ブラジル・リオデジャネイロ・アンダライステーク、ボタフォゴワードの若い女性たち(写真/バーバラ・ジーン・ジョーンズ)。



### フレンド表紙

フォトイラストレーション/クレグ・ダイヤモンド

## 一般

- 2 大管長会メッセージ——主の灯台——教会の青少年へのメッセージ  
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 16 生ける預言者の言葉
- 18 キリストの御霊——暗闇の中の光 ダニエル・K・ジャッド
- 25 家庭訪問メッセージ——収入の範囲内で生活する
- 26 末日聖徒の声——「あらゆる賜物……を主に願い求める」  
克服する意志 ホルヘ・フローレス  
「行って、ウェンディを見てきなさい」ダーリーン・ジョイ・ニコルス  
子どもたちのためにしっかりしなければ エライザ・M・トーレス  
失くしたパンフレット ウェンセスラウ・サルグエロ
- 32 より良い家庭のタベにするために
- 34 人生という旅の中で学んだ教訓 十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン
- 48 『リアホナ』2001年5月号の活用法

## 青少年

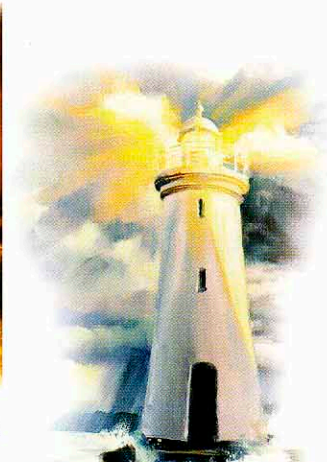
- 8 聖餐のパスは卒業? ウェイン・B・リン
- 10 人々に手を差し伸べるリオの少女たち バーバラ・ジーン・ジョーンズ
- 23 マイケルの書き置き カミール・コール・ターベット
- 24 ポスター——危険です! 崖っ縁の生活
- 44 苦難の末、一つとなった家族 ディーン・M・ミュレン
- 47 いつもわたしの友でいてくださる御方 ベッキー・プレスコット

## フレンド

- 2 分かち合いの時間——じゅうじゅんによってしゅくふくをうける  
ダイアン・S・ニコルズ
- 4 約束 T・S・ヘッティンガー作
- 7 イエスのように——「あきらめないで」  
シャルリーヌ・ジャーマイン・メーヤー
- 8 ポスター——バプテスマの聖約を新しくしましょう
- 10 小さなお友だちへ——リン・G・ロビンズ長老
- 12 新約聖書ものがたり——歩けなかった男、山上のすいくん



18ページ参照



2ページ参照



34ページ参照



24ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。  
アイスランド語、アムハラ語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

**大管長会:** ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト  
**十二使徒定員会:** ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング  
**編集長:** デニス・B・ノイエシユバンダー  
**顧問:** L・ライオネル・ケンドリック、菊地長彦、ジョン・M・マドセン  
**教科課程管理部責任者**  
実務部長: ロナルド・L・ナイトン  
企画・編集ディレクター: プライアン・K・ケリー  
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

**国際機関誌スタッフ**  
編集主幹: マービン・K・ガードナー  
編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン  
編集副主幹: ロジャー・テリー  
編集補佐: ジェニファー・グリーンウッド  
編集補助: スーザン・パレット  
出版補佐: コレット・ネペカー・オウン  
**デザインスタッフ**  
機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ  
アートディレクター: スコット・パン・カンペン  
デザイナー主任: シェリー・クック  
デザイナー: トーマス・S・チャイルド  
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ  
制作: レジナルド・J・クリステンセン、カリ・A・カウチ、デニース・カービー、ケリー・プラット、ディーナ・L・ソレンソン、クラウディア・E・ワナー  
デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン  
予約購読スタッフ

ディレクター: ケイ・W・ブリッグス  
配送部長: クリス・クリステンセン  
マーケティング部長: ジョイス・ハンセン  
●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391  
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351  
印刷所 理工印刷株式会社  
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)  
半年予約1,200円(送料共)  
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月  
原題—International Magazines May, 2001.  
Japanese, 21985 300

**For Readers in the United States and Canada:**  
May 2001 no.5. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

**POSTMASTER:** Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

### 読者からの便り



### 「すずめの信仰」

『リアホナ』(スペイン語版)のように有益で、人を高める出版物をこれまで読んだことがありません。わたしは年も若く、これまであまり本を読むのが好きではありませんでした。ですから、この機関誌を読み始めたときには、聖文を研究しようという気になり、主イエス・キリストのメッセージが理解できるようになるとは思ってもみませんでした。しかし、2000年1月号を読んでいるとき、七十人のH・ブルース・ストゥーキ長老の『すずめの信仰—主イエス・キリストを信じる信仰と信頼』という話が自分の生活に大きな影響を与えてくれました。その影響力により、わたしはその後聖文を研究し続けるようになりました。

天父と天父が遣わしてくださった宣教師のおかげでわたしは真理を見いだしました。わたしはバプテスマを受ける予定です。わたしのような人々を教えるために、宣教師を備えてくれていることに感謝しています。

エルサルバドル・サンミゲルステーキ  
オリエンタルワード  
アレクシ・アントニオ・ロベツ・ロベツ

注—ロベツ兄弟はこの手紙を書いて間もなく、2000年3月18日にバプテスマを受けました。

### 伝道の業における成功

コンゴ民主共和国では、国内の特定の区域で戦争が行われていますが、それにもかかわらず主の業は大いに推し進められています。

ある日、同僚とわたしは、シルビー姉妹の家のドアをノックしました。2日後、わたしたちは彼女のご主人であるアントワーン兄弟に会いました。アントワーン兄弟が教会の名前を尋ねたので、自分たちが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であると伝えました。

すると彼は「まさにわたしが探し求めていた教会だ」と喜びの声を上げました。「わたしは、古いモルモン書を持っています。なくなってしまったページもあります。お二人に会えてほんとうにうれいす。」

3週間後アントワーン兄弟は、バプテスマを受けました。わたしは、主の業に導かれることを望んでいる人々には、御霊の導きが与えられることを心から知っています。

コンゴ民主共和国 キンシャサ伝道部  
ムホウンゴウ・ラフィン長老

### 変化をもたらす動機づけとなる贖い

『リアホナ』(スペイン語版)を受け取る度に、とてもうれしくなります。記事やお話を読み、内容について深く考えてからそこで教えられている原則を生活で実践します。また、機関誌のおかげで試練のときにも非常に力づけられています。しばしば教会の会員でない友人のために、『リアホナ』の定期購読のプレゼントをしています。

会員になって27年たちますが、今でも毎日新しい事柄を学んでいます。救い主の贖いについて書かれた記事を読むと、いつも高められます。主がわたしたちのために払われた犠牲に心から感謝しています。主の模範を考えると、主がわたしに望んでおられるような生活を送るために自分を変え、働きたいと思えるのです。

コロンビア・ボゴタ・ケネディステーキ  
ケネディ第1ワード  
バーサ・バレラ・デ・ブリド



# 主の灯台

教会の青少年へのメッセージ

第一副管長

トーマス・S・モンソン

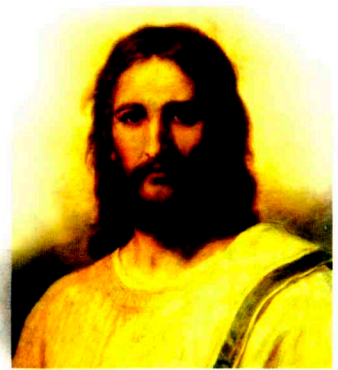
# 教

会の青少年の皆さんは栄えある人々、選ばれた世代です。詩人ヘンリー・ウォズワース・ロングフェローの記した言葉を心に留めてください。

美しき若者、その輝き  
その幻想と願いと夢  
つづられる人生は始まったばかりで幕は下りず、  
おとめはヒロインに、男は友になるのだ。<sup>1</sup>

ちょうど20年前には、皆さんの多くはまだ死すべき世への旅に出ていませんでした。皆さんの住まいは天の家にありました。わたしたちはそこでの存在の詳細については、ほとんどと言ってよいほど知りません。知っていることはただ、わたしたちを愛してくださり、わたしたちの永遠の幸せを気遣ってくださった方々のところにいたということだけです。その後、わたしたちの進歩にとって地上での生活が必要な時が訪れました。きっと別れの言葉が告げられたことでしょう。信頼の気持ちが表され、死すべき世への門出の時がやって来ました。

何とすばらしい卒業式がわたしたち一人一人を待ち受けていたことでしょう。愛にあふれた両親が喜んで地上の家庭にわたしたちを迎え入れてくれました。優しい心遣いと愛情に満ちた抱擁がいつでも待ち受けていました。新生児のことを



主の灯台に目を向けてください。  
そうすれば深い霧はなく、  
暗い夜はなく、強い風はなく、  
行方不明の船員はいないでしょう。  
その光は  
人を救うことができます。

「地上に人類の花を咲かせるために、神の家から降りて来たばかりの咲きたての甘い花」<sup>2</sup>と述べた人がいます。

最初の数年間は貴い特別な数年でした。サタンはわたしたちを誘惑する力をまったく持ちませんでした。わたしたちはまだ責任を負う者となっておらず、神の前に罪のない状態でした。学び続けた数年間でした。

それから間もなくわたしたちは、「恐ろしい10代」というレッテルをはられた時期に入りました。わたしは「すばらしい10代」という方が好きです。知識の獲得と真理の探究で特徴づけられる機会に恵まれた時期、成長の時季、発達の時なのです。

この数年を容易な時期と述べた人はだれもいません。事実、この数年間は困難なことが多くなってきました。世界は安全な停泊港を離れ、また平和な港から吹き流されてしまったかのようです。放縦、不道徳、ポルノグラフィ、同世代の仲間からの圧力があって、多くの人が罪の海原に放り出され、機会の喪失、祝福の没収、夢の粉碎という角ばった岩礁に打ちつけられています。

わたしたちは心配して、「安全を得られる道はあるのか。だれかから導きを得られるのか。恐ろしい破滅から逃れられるのか」と問いかけます。

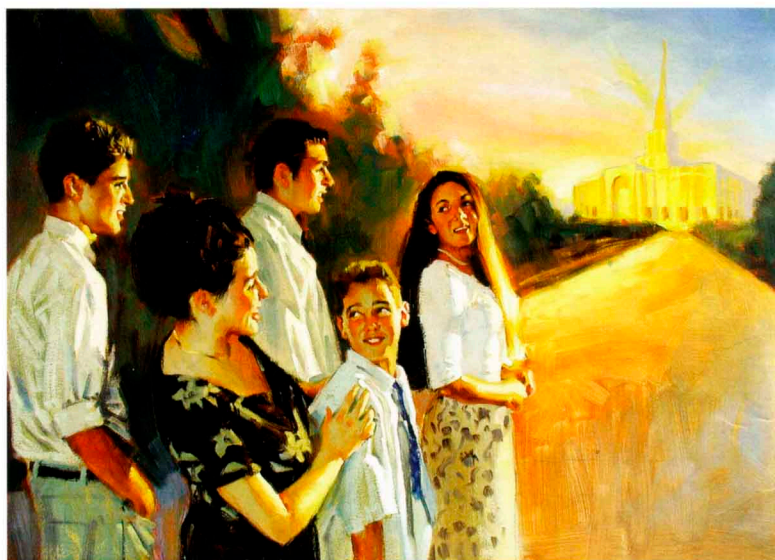
その答えは明確な「はい」です。わたしは皆さんにお勧めします。主の灯台に目を向けてください。そうすれば深い霧はなく、暗い夜はなく、強い風はなく、行方不明の船員はいないことでしょう。その光は人を救うことができます。それは「こちらが安全な道、こちらが故郷への道」と呼びかけます。

主の灯台は見分けやすいシグナルを送り出し、決して途絶えることはありません。わたしはこのようなシグナルを3つ提案したいと思います。これに注意を払うなら、人生あらしの嵐の中でも導きを得られるでしょう。

1. 注意深く友人を選ぶ。
2. 目的をもって将来の計画を立てる。
3. 信仰をもって人生を築き上げる。

## 1. 注意深く友人を選ぶ

何年前かに教会の幾つかのワードとステークを選んで行われた調査から、非常に重要な事実が分かりました。一般的に言って、神殿で結婚した友人を持っている人々は神殿で結婚し、神殿で結婚しなかった友人を持っている



**一時的な都合や浅薄な目標、狭量な野望のためではなく、皆さんのように、非常に重要な事柄、すなわち永遠の目標のために計画を立てている人々と交わってください。**

人々は神殿で結婚しないのです。友人の影響は親の勧めにも匹敵するもので、教室での教えや神殿への訪問以上に大きな影響を及ぼすことが明らかです。

わたしたちは自分が称賛する相手に似てくる傾向があります。ナサニエル・ホーソン（訳注——アメリカの小説家。1804-1864年）の傑作『大きな石の顔』(The Great Stone Face)にあるように、わたしたちは自分が称賛する人々の癖や態度、また行動さえも取り入れます。そして、普通、称賛する人々がわたしたちの友人となります。一時的な都合や浅薄な目標、狭量な野望のためではなく、皆さんのように、非常に重要な事柄、すなわち永遠の目標のために計画を立てている人々と交わってください。

友人が皆さんの考え方や行動に大きな影響を及ぼすだけでなく、皆さんも友人に影響を及ぼします。教会員でない多くの人々が、教会の活動に誘ってくれた友人を通じて教会に来るようになりました。わたしの家族の大切な経験をお話ししましょう。この話はわたしがトロントに本部のあるカナダ伝道部を管理するように召された1959年にさかのほります。

カナダに着いて間もなく、娘のアンは5歳になりました。彼女は伝道に出かける宣教師たちを見て、自分も宣教師になりたいと思っていました。妻は理解を示し、アンが教会の機関誌『チルドレンズフレンド』(Children's Friend)を何冊か学校のクラスに持って行くことを許しました。アンにとってそれでは十分ではありませんでした。アンはモルモン書を持って行き、ベッパ先生に渡して教会のことを話したいと思ったのです。やがてわたしたちはトロントから

帰国し、長い歳月が過ぎました。そして今から数年前、わたしたちが休暇を終えて家に帰ると、郵便受けにペッパー先生からの手紙が入っていました。とても感動的でした。手紙には次のように書かれていました。

「愛するアン、

何年も前のことを思い出してください。わたしはカナダのトロントであなたの学校の教師でした。わたしはあなたが学校に持って来た何冊もの『チルドレンズフレンド』に感銘を受けました。あなたがモルモン書という本を大切にしていたことにも感動しました。

わたしはいつかソルトレーク・シティーに行って、なぜあなたがあのように話したのか、またなぜあのように信じていたのか、その訳を調べようと決心しました。今日、わたしはテンプルスクウェアの訪問者センターを訪れる特権にあずかりました。自分が信じていた事柄を理解していた5歳の少女に感謝しています。わたしはようやく、末日聖徒イエス・キリスト教会のことがよく分かるようになりました。」

ペッパー先生はその訪問の後、程なく亡くなりました。娘のアンがユタ州ジョーダンリバー神殿に参入し、何十年も前に友情を築いた愛する先生のために神殿の儀式を行ったとき、どれほどの幸せを味わったことでしょう。

## 2. 目的をもって将来の計画を立てる

ルイス・キャロル（訳注——イギリスの数学者、作家。1832-1898年）の古典『不思議の国のアリス』の中で、アリスは分かれ道に差しかかりました。道は両方ともその先に伸びていましたが、行く方向は逆でした。アリスはチェシャ猫に会い、「わたしはどちらの道を行けばいいの」と尋ねました。

猫は答えました。「それはおまえ次第だよ。どちらへ行きたいか分からなければ、どちらの道へ行ったら大した違いはないさ。」<sup>3</sup>

アリスと違って、わたしたちは皆、自分が行きたい所を知っています。ど

の道に行くかが大切です。わたしたちがこの世で進む道は確かに、次の世で進む道に通じているからです。

若い兄弟姉妹の皆さんに申し上げます。どうぞ、自分が何者かを覚えていてください。皆さんは全能の神の息子であり、娘です。皆さんには到達すべき行く末があり、生きるべき人生があり、貢献すべき事柄があり、達成すべき目標があります。地上における神の王国の将来は一部分、皆さんの献身にかかっているのです。

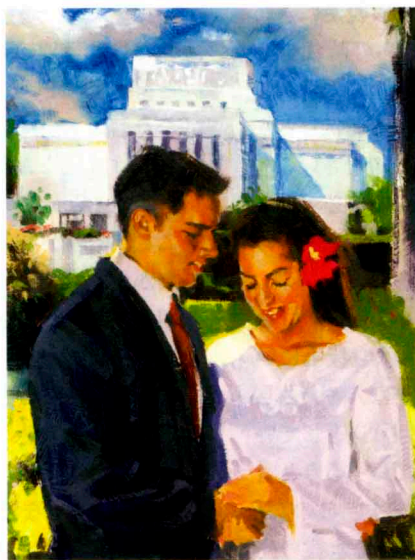
次のことを覚えておきましょう。神の知恵は人には愚かなものように見えるかもしれませんが、わたしたちが死すべき世で学ぶことのできる最も大なる簡潔な教訓は、神がお語りになり、わたしたちが従うとき、わたしたちはいつも正しいということです。一部の愚かな人々は神の知恵に背を向けて、気まぐれな流行の惑わしや偽りの人気の魅力、一瞬のスリルに従います。彼らの行いは生得権を1杯のあつものと交換したエサウの悲惨な経験に似ています。<sup>4</sup>

そして、そのような行為の結果はどうでしょうか。わたしは証します。神に背くと、聖約を破ることになり、夢は碎かれ、望みは消え去り、計画は消失し、期待は果たされず、希望は打ち破られ、努力は無駄になり、性格はねじ曲げられ、人生は挫折してしまいます。

このような流砂の沼地を避けるよう、わたしは皆さんにお勧めします。皆さんは高貴な生まれです。日の栄えの王国における昇栄が皆さんの目標です。

このような目標は1度限りの立派な働きにより達成されるものではなく、むしろ生涯にわたって義を行い、賢明な選択を積み重ねること、すなわち絶えず目的意識をもって過ごす結果として達成されるものなのです。成績表で皆が欲しがると同じように、永遠の命の報いには努力が必要です。Aの評価は毎回の論文、毎回の小テスト、毎回の授業、毎回の試験、毎回の読書課題、毎回の期末論文の結果として与えられるものです。そのように教会での毎回のレッスン、毎回

**教会での毎回のレッスン、毎回の祈り、  
毎回のデート、毎回の友人との交流、  
毎回のダンス、これらはすべて  
神殿結婚の目標に先立つものです。  
そして、神殿結婚は  
人生の成績表にAの評価を得るための  
大きなステップなのです。**



の祈り、毎回のデート、毎回の友人との交流、毎回のダンス、これらはすべて神殿結婚の目標に先立つものです。そして、神殿結婚は人生の成績表にAの評価を得るための大きなステップなのです。

わたしたちの目標は、達成すること、卓越した者になること、完全になる努力をすることです。しかしながら、このことを覚えていてください。人生におけるわたしたちの務めは、ほかの人々の先を行くことではなく、自分自身の先を行くことです。自分自身の記録を破ること、昨日よりも今日立派になること、かつて夢に見たよりもっと立派に自分の試練に耐えること、過去になかったほど与えること、これまで以上に力強くもっとしっかりと自分の務めを成し遂げること、これがほんとうの目的です。そして、この務めを果たすために、与えられた機会を最良のものにしようと思ひ、それを自分の行動に反映させるのです。わたしたちは、サタンが仕掛けてくる「引き延ばし」という巧妙なわなと誘惑に背を向けます。2世紀前にエドワード・ヤング(訳注——イギリスの詩人。1683-1765年)はこう言いました。「引き延ばしは時間のどろぼうだ」<sup>5</sup>と。実際には引き延ばしはそれ以上のものです。自尊心を奪うどろぼうです。わたしたちを苦しめ、わたしたちの楽しみを台なしにします。抱負と希望の実現を途中で終わらせてしまいます。このことを知るときに、「今日という日はチャンスの日。わたしはそれを無駄に過ごさない」という確信をもって、わたしたちは現実に立ち返ります。

使徒パウロがコリントの聖徒たちに、人生は競走にきわめて似ていると教えたとき、恐らくわたしたちの時代を心に描いていたのでしょう。「あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は、みな走りはするが、賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも、賞を得るように走りなさい。」<sup>6</sup>

伝道の書の作者は同じ主題で述べています。「必ずしも速い者が競争に勝つのではなく、強い者が戦いに勝つでもない。」<sup>7</sup>最後まで堪え忍ぶ者が勝つのです。

人生の競走は選んで参加するものではありません。好むと好まざるとにかかわらず、今、わたしたちは競技場にて走っているのです。人によってはゴールがほんやりとしか見えず、失意と挫折に至る代価の大きな回り道をしているかもしれませぬ。しかし、良い走りをしてはつきりと賞が見えており、堅実に進んでいる人々もいます。この賞、この高遠な望ましいゴールこそ、神の前における永遠の生

活にほかならないのです。

皆さんが目的をもって将来の計画を立てるとき、知識と靈感の宝石箱の鍵が開かれることでしょう。

### 3. 信仰をもって人生を築き上げる

わたしたちの時代の混乱と良心の葛藤<sup>かっとう</sup>、日々の生活の奮闘のただ中であって、不変の信仰は人生の錨<sup>いかり</sup>となります。

個人の祈りと家族の祈りの中で天の御父に求めることによって、わたしたちと愛する者たちはイギリスの偉大な政治家ウィリアム・E・グラッドストーンが述べた事柄に至るようになることでしょう。世界が最も必要としているのは「人格をお持ちの神を信じる生ける信仰」であると、彼は述べました。このような信仰は主の灯台のようにわたしたちの道を照らすことでしょう。

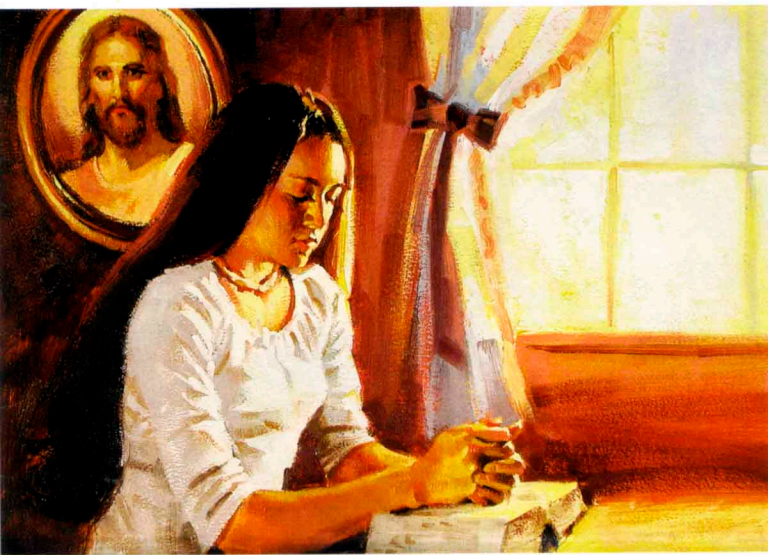
生ける神を信じる不変の信仰を持ち、心に抱いた確信を目に見える行動に反映させるとき、皆さんは外に表れる徳と内に秘めた徳が結びついた強さを持ちます。これらの徳は、どんなに荒波が押し寄せようとも、安全な航海を可能にするのです。

わたしたちがどこにいても、天の御父は信仰をもってささげられる祈りを聞いてこたえてくださいます。

何年も前のこと、わたしはデビッド・O・マッケイ大管長が深く愛したサモアのサウニアツという有名な村を初めて訪れました。そのとき、妻とわたしはおよそ200人の幼い子どもたちが集まった大きな集会に出席しました。これらの内気な、しかし美しい幼い子どもたちへの話を終えると、わたしは現地のサモア人教師に、閉会行事に移りましようと言いました。しかし、彼が最後の賛美歌を発表したとき、わたしはふいに、子どもたち一人一人と個人的にあいさつしなければならないという強い気持ちに促されました。時計を見ると、そのような特権に浴するには時間が短すぎることは明らかでした。出国する飛行機の時間が決まっていたからです。それでわたしはその気持ちを打ち消しました。閉会の祈りがささげられる前に、わたしはもう一度一人一人の子どもと握手しなければならないと感じました。そこで教師にそのことを知らせると、彼はあのおおらかで美しいサモア人の笑顔を見せました。そして、彼はサモア語で子どもたちにこのことを発表しました。すると、子どもたちも輝くような喜びの表情を見せてくれました。

教師は、彼と子どもたちが喜んだ訳を次のように話して





**わたしたちの時代の混乱と良心の葛藤、日々の生活の奮闘のた  
だ中であって、不変の信仰は人生の錨となります。**

くれました。「十二使徒評議会の一員が教会本部からはるか遠く離れたサモアのこの地を訪れてくださるということが分かったとき、わたしは子どもたちに、熱心に心を込めて祈り、昔の聖書の話のように信仰を表したら、その使徒はサウニアツの小さな村を訪れて、皆の信仰によって一人一人の手を握ってあいさつしようという気持ちを抱いてくださると告げたのです。」その貴い少年少女たちが恥ずかしそうに歩み寄って来て、かわいらしい小声で「タロファラバ(talofa lava)」と麗しいサモア語のあいさつの言葉をかけてくれたとき、わたしは涙を抑えることができませんでした。あつい信仰の表れを、そこにはっきりと感じました。

同じ心の中に信仰と疑いが同時に共存することはあり得ないということを感じていてください。一方が他方を消し去るからです。

疑いがあなたの心の扉をたたいたら、そのとき、懐疑的な、不安を引き起こす、反抗的な思いにこう言ってください。「わたしは自分の信仰と、人々の信仰を守り通す。そこに幸福と満足があることを知っている。不可知論の、疑い深い思いよ、あなたにはわたしの信仰の家を壊させない。わたしは、自分が創造の過程を理解していないことは認めるが、創造という事実は受け入れている。聖書の数々の奇跡は説明できないことを認めるし、説明しようとも思わない。しかし、神の言葉をわたしは受け入れている。わたしはジョセフ・スミスと一緒にいなかったが、彼のことを信じている。わたしの信仰は科学によって与えられたものではない。いわゆる科学が信仰を破壊するのを、わたしは許さない。」

皆さんがいつも信仰をもって人生を築き上げることができましますように。

わたしの愛する若い友である皆さん、皆さんが注意深く友人を選び、目的をもって将来の計画を立て、信仰をもって人生を築き上げるとき、皆さんは聖なる御霊との交わりという恵みを受けるでしょう。皆さんは「完全な希望の輝き」<sup>8</sup>を持つでしょう。皆さんは自分自身の経験から次の主の約束が真実であるという証を持つでしょう。「主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。」<sup>9</sup>

主の灯台は間違いなく確実に道を備えます。その灯台から皆さんとわたしに与えられる導きのシグナルに従って、わたしたちが安全に故郷に帰るための道を見いだせますように。□

#### 注

1. ヘンリー・ウォズワース・ロングフェロー, "Morituri Salutamus"
2. ジェラルド・マシー, *The Home Book of Quotations*, パートン・スティーンソン選(1934年)121
3. ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』(*Alice's Adventures in Wonderland*) [1992年]89
4. 創世25:29-34参照
5. ジョン・バーレット, *Familiar Quotations*, 第14版(1968年)399
6. 1コリント9:24
7. 伝道9:11
8. 2ニーファイ31:20
9. 教義と聖約76:5-6

#### ホームティーチャーへの提案

1. 友人は、わたしたちの考え方や行動に大きな影響を及ぼします。同じように、わたしたちも友人に影響を及ぼします。
2. 人によってはゴールがぼんやりとしか見えず、失意と挫折に至る代価の大きな回り道をしているかもしれません。しかし、はっきりと賞、すなわち神の前における永遠の生活が見えており、堅実に進んでいる人々もいます。
3. 生ける神を信じる不変の信仰を持ち、心に抱いた確信を目に見える行動に反映させるとき、わたしたちは、どんなに荒波が押し寄せようとも、安全な航路を見いだすのです。



# せいさん 聖餐のパスは卒業?

ウェイン・B・リン



デビッドはジョンソン兄弟の後ろのいすに座り、身をかがめて隠れていました。みんなが自分を捜しに来ることを知っていたからです。礼拝堂にいた人はそれほど多くなく、見つからないままではいるのは難しい状況でしたが、デビッドは自分のいる席なら執事定員会のアドバイザーに見つからないだろうと考えました。

もし見つかったなら、聖餐のパスを頼まれることをデビッドは知っていました。でも、彼はパスをしたくありませんでした。もう祭司になり、高校のバスケットボールチームの選手になるほど背も高くなっていました。自分の背丈の半分しかない執事たちと一緒に礼拝堂の前に立つのは恥ずかしいと思いました。

デビッドの父親が壇上から様子をうかがっていました。デビッドは父が不満そうにしているのを感じました。しかし、とても驚いたことに、執事たちを手伝うようだれからも頼まれませんでした。だれかがデビッドに声をかける前に、ヘンスリー兄弟が自ら名乗り出たからです。

ヘンスリー兄弟は教会に入って間もない会員です。デビッドより少し年上で、最近アロン神権の聖任を受けたばかり

でした。ヘンスリー兄弟が宣教師から福音を学んでいると知ったとき、ワードの会員たちはとても喜びました。ヘンスリー兄弟は高校時代、非常に人気があった人で、今は大学に通っています。

ヘンスリー兄弟は、執事の横に背筋を伸ばして立ちました。堂々と歩き、威厳をもって神聖な象徴である聖餐をパスしました。

集会の後、何人かの会員がロビーでヘンスリー兄弟と話していました。デビッドは、彼らの会話に聞き耳を立てずにはいられませんでしたが。ヘンスリー兄弟の近くに寄り、次の質問が聞こえたときは特に耳をそば立てました。

だれかがこう聞いたのです。「今日は手伝ってくださって、ありがとうございます

ました。ほくたちのような若い執事たちと一緒に働いて、嫌ではありませんでしたか。」

デビッドはヘンスリー兄弟の返事を聞いて、驚きました。「いいえ、とんでもない。とても名誉なことだと思います。初めて聖餐のパスをした方はどなただったか、御存じですよ。」その答えとして、ヘンスリー兄弟は次のように言いました。「イエス・キリストです。最後の晩餐で使徒たちに聖餐を配られたのです。わたしが聞いた話では、現代の使徒や預言者も、今日わたしたちがしたのと同じように聖餐の儀式を執行し、パスするそうですよ。使徒や預言者が聖餐のパスの特権を感じるなら、わたしもそのように思います。」

デビッドはその場を静かに去りながら、たった今聞いた話についてよく考えました。そして、今度の日曜日は、聖餐のパスを頼まれてもいいように、執事定員会のアドバイザーやほかの人々にすぐ見つかるような目立つ場所に座ろうと心に決めました。□

ウェイン・B・リンはユタ州センタービル南ステーク、センタービル第19ワードの会員です。



▲ ブラジル・リオデジャネイロ・アンダライステーク、ポタフォーゴワードの若い女性。

人々に手を差し伸べる

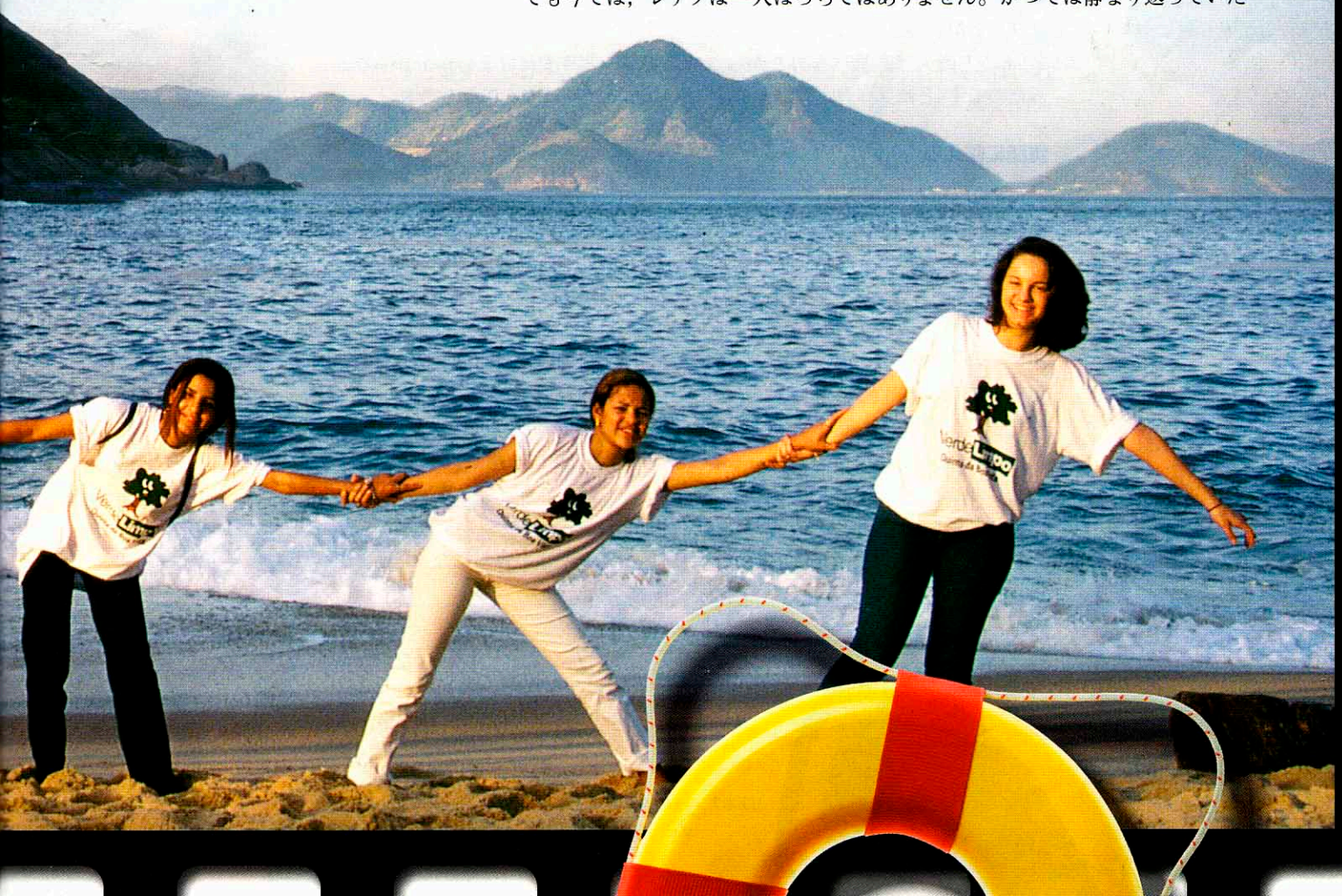
# リオ


の少女たち

「人々に手を差し伸べましょう。友達になりましょう。親切にしましょう。励ましましょう。この業、すなわち、主の業に対する彼らの信仰と知識を増し加えましょう。」(「生ける預言者の言葉」『リアホナ』1999年8月号, 15)

**15**歳のレナタ・アラウズーが冷たいタイルの床の上を歩くと、足音が寂しく響きました。廊下の突き当たりにある若い女性の教室に入っても、そこには自分しかいないことを、レナタは知っていました。新たに組織されたワードでは、若い女性のプログラムに所属する活発な会員は、レナタしかいないのです。「わたしはとても孤独でした」と彼女は振り返ります。

でも今では、レナタは一人ぼっちではありません。かつては静まり返っていた





寂しい教室も、今ではブラジル・リオデジャネイロ・アンダライステーク、ポタフォーゴワードの10人の活発な若い女性が熱心に話し合う元気な声がかましています。わずか1年の間にこの変化が起きたのです。この若い女性たちの物語は、新しい改宗者、あまり活発でない会員、会員ではない人々に特に手を差し伸べなさいというゴードン・B・ヒンクレー大管長の勧告(本号に掲載)に会員が従うとき、どのような変化が起きるかを如実に表しています。

### 再活発化を助ける

「かつては信仰を持って熱心だったにもかかわらず、だんだんそれが冷めてきている人がいます。教会に戻ることを望んでいるのですが、どうしたらよいかまったく分からずにいる人も大勢います。彼らは優しく差し伸べられる手を必要としています。」(「援助の手を差し伸べる」『聖徒の道』1997年1月号, 99)

数か月間教会にあまり活発でなかった、カミラ・レイスとサブリーナ・レイスという18歳の双子からすべては始まりました。新しいポタフォーゴワードの若い女性会長、ベラ・ピメンテルは教会にあまり活発でない少女たち一人一人に電話して、教会や活動への送迎を申し出ることから始めました。それはまさに、カミラとサブリーナが必要としていたことでした。

「わたしたちは教会へ戻りたかったのですが、どうすればよいか分からなかったのです」とサブリーナは言います。「でも、ベラが助けてくれたのです。」

### 質問に答える

「会員は宣教師が近くにいないときに、求道者の質問に答えます。会員は、大きな、時には難しい変化を遂げようとする求道者の友達になるのです。」(「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 122)

サブリーナとカミラは教会へ集うようになるとすぐ、ほかの人たちの手助けを始めました。アナ・カロリナ・バティスタという14歳の少女が、母親と一緒に教会を訪問するようになったとき、サブリーナとカミラはアナを助けたのです。アナ・カロリナが初めて教会に来たとき、サブリーナとカミラが彼女のそばに座り、レッスンの間聖句を見つける方法を教えてくれたので、アナの不安は消え去りました。「どうすればよいかまったく分からなかったので、二人が助けてくれて、ほっとしました。わたしのことを助けてくれる人がいると分かって、とても安心しました」と、アナは振り返ります。

サブリーナとカミラの友情のおかげで、教会へ入る決意が容易になったとアナ・カ

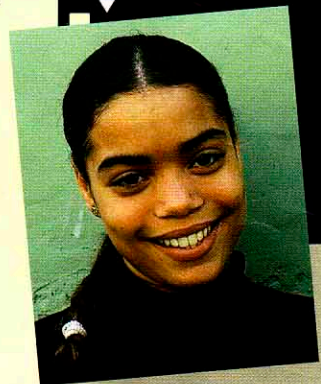
レナタ・アラウスト



パメラ・シルバ



タチアネ・ピメンタ

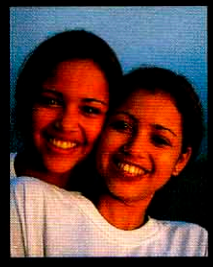


**ピメンテル姉妹は  
あるゲームを教えました。  
それは少女たちが全員、  
部屋の中央に  
靴を並べ、**



靴の写真 / タムラ・H・ラティエラ

カミラ・レイスとサブリーナ・レイス



ダニエル・ラマルン



アナ・カロリナ・バティスタ



ロリーナは言います。サブリーナとカミラもうれしく思いました。彼女たちの小さなクラスは、人数が増えていったのです。

### あいさつによって愛と関心を示す

「教会に来ることは、一つの冒険です。改宗者を迎える温かく力強い会員の助けと、愛と関心に満ちた態度がなければ、……彼らは道をそれて行くかもしれないのです。」(「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 125)

アナ・カロリナが新しい求道者に手を差し伸べたことで、教会に戻ったり、入ったりする少女たちが何人も現れるようになりました。16歳のタチアニ・ピメンタとその家族は、ピメンテル姉妹に教会を紹介され、教会に来るようになりました。「知っている人が一人もいないので、とても臆病になっていました。」タチアニは言います。「わたしは隅の方で黙っていました。」

けれどすぐにタチアニの置かれた状況は変わり始めました。「友達ができただけで、気持ちが落ち着いてきました。」あるクラスで、ピメンテル姉妹はゲームを教えました。それは少女たちが全員、部屋の中央に靴を並べ、だれかほかの人の靴を履き、その持ち主と友達になるというものでした。「このゲームのときから、アナ・カロリナと話をするようになりました」とタチアニは振り返ります。「彼女は、教会で初めて友達になった人でした。わたしのことをとてもよく励ましてくれました。彼女がいたおかげで、教会に入ろうと思ったのです。」

### 福音を分かち合う。友達になる

「新しい改宗者はだれでも〔友人を〕必要としています。……すべての改宗者は『神の善い言葉で養われ』なければなりません(モロナイ6:4)。」(「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 125)

カロリナ・キタノは、数年間あまり活発でなかった両親が再び教会に集うようになったので、若い女性のクラスに来るようになりました。幼いころは楽しく初等協会に出席していましたが、カロリナはバプテスマを受けていませんでした。教会や会員のこともあまり知りませんでした。「教会に戻ったとき、だれ一人知っている人がいなければ、気後れするものです。ですからわたしも最初はあまり教会に行きませんでした」とカロリナは言います。

けれどすぐに宣教師とピメンテル姉妹がカロリナの家を訪問し、福音について教え始めました。カロリナはさらにこう述べています。「〔ピメンテル姉妹は〕レッ

だれかほかの人の靴を履き、その持ち主と友達になるというものでした。





**ポタフォゴワードの若い女性の活発会員の数、1年間に1人から10人に増えました。**

スンを準備するときはずっと、わたしの家に来て、説明してくれました。そして、モルモン書が読めるようにいつも助けてくれました。」

カロリナもまた、友達を作り始めました。「教会に戻るうえで最も大きな助けとなったもの、そしてバプテスマを受ける望みを持つ助けとなったものは、ここで得た強い友情だったのです。彼女たちはいつもわたしのそばにいてくれました。そして『ねえ、活動に参加してね。今度の日曜日に来てね』いつも声をかけてくれたのです。彼女たちはいつもわたしに教会のことを思い出させてくれました。」

### 役割を与える

「どの改宗者にも、責任を与えるべきです。……もちろん新しい改宗者はすべてを知っているわけではありません。時には間違いを犯すこともあるでしょう。それは問題ではありません。……大切なのは、活動からもたらされる成長なのです。」(「子羊を見だし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号、125)

カロリナと同じように、16歳のカタリナ・アチャニズはワードの会員から教会を紹介されるとすぐ、友達ができました。宣教師のレッスンや友達の模範を通して、カタリナもすぐに証<sup>あかし</sup>を得ました。バプテスマを受けた直後、カタリナはマイアメイドの会長会の責任に召されました。」カタリナはこう話しています。「わたしは責任を感じました。わたしが召しを果たすことを頼りにしてくれる少女たちがいたからです。すべての事柄をうまく行いたいと思いました。この責任を通して、福音に固く従うことができるようになりました」とカタリナは言います。

### 決してあきらめない

「この回復された福音が持つ美しさと不思議を知ってしばらくしてから、何らかの理由で去ってしまった兄弟姉妹に手を差し伸べていただきたいのです。…

… [会員]がこれらのチャレンジにこたえるならば、彼らは主の手に使われる者となって、人々を主の教会と王国に連れ戻すことからもたらされる甘くすばらしい気持ちを味わうであろうことをわたしは心から信じています。」(「より良いホームティーチャー、訪問教師となるには」『聖徒の道』1998年9月号、37)

16歳のモエマ・デュバリーは、初めて来たときから教会が大好きになりました。彼女はこうに話しています。「若い女性の人たちはわたしを受け入れ、みんなと友達になれるように助けてくれました。おかげで、教会がまるでもう一つの我が家のように感じられました。」

けれどバプテスマを受けて数か月たって、母親が教会に来なくなると、モエマにとって教会に来るのが困難になってきました。カタリナは自分の責任ではあったものの、モエマを思う強い友情から、彼女に電話をかけ始めました。

「時々わたしはモエマを煩わせているように感じました」とカタリナは言います。「でも、電話を続けました。なぜならそれが大切なことだと思っていたからです。そして祈っ

モエマ・デュバリー

カタリナ・アチャニズ



カロリナ・キタノと母親

**「少女たちはいつもわたしのそばにいてくれました。そして『ねえ、活動に参加してね。今度の日曜日に来てね』いつも呼びかけてくれたのです。彼女たちはいつもわたしに教会のことを思い出させてくれました。」**

**若い女性は会員にも会員でない人たちにも同じように手を差し伸べます。これは、ホームレスの避難所で奉仕しているところです。**





ているので神様が助けてくださると信じていました。」

カタリナやほかの少女たちのフェローシップが数か月続き、モエマは活発に教会に集うようになりました。「わたしが教会に戻って来たのは、今まで教会で学んだことがすべて懐かしく思い出され、神様や会員との関係を取り戻したいと思ったからです。」

モエマとカタリナは現在、特別なきずなで結ばれています。「あまり活発でなかったとき、わたしは友達を必要としていました。だからとても感謝しています」とモエマは言います。「カタリナがわたしのためにしてくれたことに、とても感謝しています。教会から遠ざかっているときには、自分が受け入れられていないように感じ始めます。でもみんなからの電話を受けると、忘れられていないことが分かり、うれしくなります。」

一方カタリナは、「モエマが戻って来てくれてほんとうにうれしいし、感謝しています」と言います。「それに、効果があったのです。祈ったことが実現したのです。」

### 支援する

「すべての改宗者は神の息子、娘です。改宗者は皆、偉大で重要な責任を負っています。会員となった人々が定着するように見守るのは、わたしたちの急務なのです。」(「子羊を見いだし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号、125参照)

新しい改宗者である14歳のダニエレ・ラマルノと、16歳のパメラ・シルバがワードに転入してくると、セミナーの友達は何人かを助けてくれました。

「会員でない人たちの中には、わたしたちのことをからかう人がいます。でもセミナーのクラスの少年たちは、いつもわたしたちを守り、親切にしてくれます。また、励ましてもくれます」とダニエレは言います。

「彼らはとてもいい友達です」とパメラは言います。「セミナーや活動に行くとき、いつも車で連れて行ってしてくれます。」

### ともに奉仕する

「わたしたちには、教会の会員だけでなく、ほかのすべての人に対して助けの手を差し伸べる義務があります。」(「主の祝福への感謝」『リアホナ』1999年7月号、106)

ポタフォゴワードの若い女性たちはお互いに助け合うだけでなく、あまり活発でない会員や地元の人たちに手を差し伸べ続けています。市の公園や10代のホームレスの避難所で奉仕するときにも、あるいはあまり活発でない少女にカードを書いたり電話したりするときにも、お互いに話をするとき、あるいはともに立って若い女性のテーマを復唱するときにも、預言者の言葉の生ける模範となろうと努力するこれらの少女たちは、一つのきずなで結ばれています。

「若い男性と若い女性の皆さん、……わたしは皆さん一人一人にお願いします。教会の改宗者を見いだし、彼らを腕に抱き、友達になってください。……心からお願いします。教会の改宗者一人一人に手を差し伸べ、彼らが信仰を築けるように働きかけてください。」(1998年3月10日、メキシコ、グアダラハラ集会にて)□

**「セミナーのクラスの少年たちは、いつもわたしたちを守り、親切にしてくれます。また、励ましてもくれます。」とダニエレは言います。**





# 生ける預言者の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告

## 神殿の重要性

「この教会がこれまで建築してきた神殿は、今、事実上どれを取ってみても、わたしたちが人の不死不滅を信じていることを表す記念碑として建っています。すなわち、わたしたちが今経験しているこの現世での生活は、いわば絶えず上り続ける階段の一部にすぎず、この世での生活が存在すると同様に、次の世での生活も存在することを信じているということなのです。わたしたちはそれを固く信じています。この確信は救い主の贖いあがなを通じてもたらされるものです。そのため、わたしが申し上げたように、神殿はこの世と次の世をつなぐ架け橋となります。神殿は不死不滅の事柄に関連しています。家族が永遠であることをわたしたちが信じなければ、結婚のために神殿を建設することもなかったでしょう。わたしたちは、家族を永遠のものとするために神殿を建設するのです。主の宮で執り行われるすべての儀式は、わ



たしたちがその根底を成す基本的な教義を信じていることの表れとなります。そのため、神殿はわたしたちの礼拝における究極の表現となり、それゆえに、わたしたちにとって大いに、また重要な意味を持つものとなるわけです。』<sup>1</sup>

## 主に忠実となる

「主に忠実となってください。主は皆さんの力であり、救いであられます。主は皆さんに祝福をもたらすことができになり、皆さんに祝福をもたらそうと

望んでおられます。あらゆる賜物たまものと恵みと祝福を求めて、主に頼ってください。ひざまずいて祈りをささげ、それから立ち上がって主の御心みこころを行い、主を信頼し、主への信仰を持ってください。そうすれば、神は皆さんを祝福して下さることでしょ。わたしは、神の僕しもべとしてそれを約束します。』<sup>2</sup>

## つながりを弱めてはならない

「皆さんは、神の計画を大きく推進するうえで、その一端を担っています。皆さんより以前に生を受けた人々も同じ役割を担っていました。肉体面でも精神面でも、皆さんの持つあらゆるものは、皆さんを通じて次の世代へと受け継がれていきます。ですから、兄弟姉妹の皆さん、ほんとうに大切な事柄、永遠にわたって大切な事柄は、皆さんが世代をつなぐその鎖の役割を果たすに当たって、決してそのつながりを弱めてはならないということなのです。』<sup>3</sup>



### 世界中の天変地異を見て

「わたしには、〔世界中で起きている〕天変地異について、多くはその理由が分かりません。しかし、わたしにも分かっていることがあります。それは、天の神が、わたしたちクリスチャンに、こうした恐ろしい災害の犠牲になっている人々に助けの手を差し伸べる責任を託されているということです。……わたしたちがキリストに従う者であるならば、わたしたちは、日々の生活において、主が御自身に従う者たちに望んでおられる事柄を実践することによって、主に従っていききたいものです。』<sup>4</sup>

### 啓示は一つのプロセスである

「神にかかわることは神の御霊<sup>みたま</sup>によって理解されます。それが歩みを始めるうえで大前提となります。神の力を否定しているときには、啓示を受けることはできません。主はこう言われました。『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教<sup>おしえ</sup>が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。』(ヨハネ7:17)これは主が語られた御言葉<sup>みことば</sup>です。啓示というものは、一つのプロセスであり、……様々な形、方法で与えられるものです。わたしは、少しのためらいもなく申し上げることができま

す。わたしは、主が数多くの事柄を通じて御自身の御心を明らかにしてこられたという確信が心にあります。……わたしたちが日ごろかかわっている膨大な数の事柄<sup>ことば</sup>といえば、教会全体としては、数百にも、数千にも及ぶでしょうが、わたしたちはそうしたことについて祈ります。また、深く考えます。そして、互いに話し合い、一つの結論に至ります。そして、それに従って行動を起こします。わたしの心の中には、そのようにして下した結論が靈感を受けた結果であるということに、まったく疑いはありません。このような形を取るのも啓示なのです。』<sup>5</sup>

### 神権

「この教会では、ふさわしい男性ならだれでも神権を持つことができます。すべてのふさわしい男性は、主なる神、すなわち世の救い主の御名<sup>みな</sup>によって語るすることができます。男性はだれでも、教会の管理の職にあって奉仕をすることができます。男性はだれでも、妻や子どもたちの頭に手を置いて、祝福することができます。それは何とすばらしいことでしょうか。世界に手を差し伸べるために、わたしたちは何と偉大なものを得ていることでしょうか。』<sup>6</sup>

### 前進する業

「皆さんは、前進を続ける教会が急速に発展する時代に生きています。ですから、皆さんはその速度に歩調を合わせる必要があります。その速度に合わせて、またその教えに添って生活する必要があります。前進する業を支援する必要があります。この教会で皆さんが受ける責任において、それぞれに託される義務はきわめて大きなものです。その責任の重要性は、この業を前進させるうえでわたしに課せられる責任において、わたしに託される義務と同様に大切なものです。』<sup>7</sup> □

### 注

- 1 1999年4月20日、『アソシエイテッドプレス』(Associated Press)紙のバーン・アンダーソンとのインタビュー
- 2 1999年4月26日、チリ、サンチアゴ、地区大会
- 3 2000年1月23日、ハワイ州オアフ、地区大会
- 4 1999年12月26日、イーストミルクリーク第12ワード、聖餐会
- 5 2000年2月25日、『デゼレトニュース』(Deseret News)紙とのインタビュー
- 6 2000年1月30日、シンガポール、集会
- 7 1999年2月28日、ユタ州ソルトレーク・シティ、地区大会

# キリストの御<sup>みたま</sup>霊

## くらやみ 暗闇の中の光

「善悪をわきまえることができるように、キリストの光の中で熱心に求める〔べきである。〕」(モロナイ7:19)

ダニエル・K・ジャッド

**末**日の聖典は、キリストの御霊は真理の源であるだけでなく、それは神がわたしたちの人生のあらゆる面であってわたしたちを助けてくださるうえで手段となるということを理解させてくれます。わたしたちはキリストの御霊についての教義を学ぶことによって、それが愛に満ちた天の御父から御父のすべての子ども<sup>たまもの</sup>たちを導き指示するために与えられている賜物であると理解できるのです。

預言者モルモンはキリストの御霊のことを、神がわたしたちを支え導くために用いられる最も基本的な手段の一つであると述べています。

「見よ、善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているか

らである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。

しかし、悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわきまえることができる。悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない。」(モロナイ7:16-17, 強調付加)

### キリストの御霊についての記述

末日の聖典は、キリストの御霊がどのように働くかについては詳細な情報を与えていませんが、その目的と影響力については述べています。わたしたちは教義と聖約から、キリストの御霊が「広大な空間を満たすために神の

**キリストの御<sup>みたま</sup>霊は、善を行うようにすべての人を誘い、またキリストを信じるように人々に勧め、折らなければならないことを人々に教えます。**





前から発している」ことを学んでいます(教義と聖約88:12)。それは太陽の光、月の光、星の光であり、その力によって万物が造られたのです(教義と聖約88:7-10参照)。それは「万物に命を与え」、また「万物が治められる律法」です(教義と聖約88:13)。キリストの御霊がキリストの光とも呼ばれているのは適切です。それは「世に来るすべての人に光を与え」るからです(教義と聖約84:46)。

### キリストの御霊と聖霊

キリストの御霊はしばしば聖霊や聖霊の賜物、霊の状態のイエス・キリストと混同されます。聖文の中でも会話の中でも、「主の御霊」「神の御霊」「キリストの御霊」などの用語がしばしば区別されずに使用されており、またその言葉がどなたのこと、あるいはどの賜物のことを述べたものか判断するのが難しい事例があるために、幾らかの混乱

が生じているのは明らかです。この神権時代の預言者たちから、わたしたちは、キリストの御霊は聖霊でも、聖霊の賜物でも、霊の御方でもなく、それはこれらが働く本来の手段であることを学んでいます。

ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)は次のように教えています。「わたしたちは聖霊を神の御霊と言うことがよくあり、また同様に、神の御霊を聖霊と言うこともあります。聖霊は神会の御一方であって、世に来るすべての人を照らされるわけではありません。世に来るすべての人を照らし、また人の子らを励まし、これからも励まし続けて、真理の知識に導き、より大いなる聖霊の光と証を得させるのは、キリストを通じて世に与えられる神の御霊です。」<sup>1</sup>

十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老(1862-1933年)は、キリストの御霊は「神聖な本質」であ

り、それによって神会は人々と自然とに働きかけられると教えています。<sup>2</sup>

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915-1985年)は、こう付け加えています。「バプテスマの前後に、すべての人に、程度の差はあるものの、その御霊すなわちキリストの光が授けられます。」マッコンキー長老はこう述べています。「たとえて言えば、バプテスマ前の証は、暗い<sup>あらし</sup>嵐の夜に道を照らす稲妻のようです。」次いで、マッコンキー長老は聖霊の賜物を「その光線が人生の道とその周囲のすべてのものを照らし出す真昼に輝き続ける太陽の光」にたとえました。<sup>3</sup>

古代と近代の預言者たちは、キリストの御霊は目的に備えさせるものであると教えてきました。それは神の子どもたちが一時的な聖霊の証を得られるように備えさせます。その後、より継続的な聖霊の賜物が続くのです。聖霊の賜物はバプテスマを受けたすべての人に授けられるものです。この過程の一例をモルモン書に出てくるラモーナイ王の改心の話の中に見ることができます。ラモーナイ王は王の権威を持っており、「[自分が]行うことはすべて正しい」と教えられていましたが、聖文が暗に<sup>しもべ</sup>告げているように、王は自分に十分仕えていないと思った僕たちを殺したことは誤りだと知っていました。「彼ら[ラモーナイ王と彼の父]は、大霊を信じていたにもかかわらず、自分たちの行うことはすべて正しいと思っていた。しかしラモーナイは、僕たちを殺したことで自分が間違いを犯したのではないかという恐れを抱き、非常に心配になってきた。」(アルマ18:5)

わたしたちはこの聖句から、神の息子や娘であるわたしたちは全員良心を持っていると結論づけることができます(ローマ2:14-15参照)。ラモーナイ王の心の内にある真理は言い伝えと罪によって暗くなっていましたが、霊は彼に働きかけて善悪の感覚をよみがえらせました。ラモーナイ王の経験はさらに続き、霊の働きかけも強さを増してきました。そして「王は……地に倒れて死んだように」になりました(アルマ18:42)。

ラモーナイ王が意識を失っていた間に経験した事柄について、こう書かれています。「アンモンは、ラモーナイ王が神の力の下にあることを知っていた……。アンモンは、王の心から不信仰という暗黒の覆いを取り除かれつつあること、そしてその心を照らす光、神の栄光の光であり神

の慈しみの驚くべき光であるこの光が、まことに、王自身の中に大きな喜びを注ぎ込んで暗黒の雲が消え去り、永遠の命の光が王自身の中にももされたことを知っていた。まことに、アンモンはこれが王の肉体に打ち勝って、王が神によって意識を失っていたことを知っていたのである。」(アルマ19:6)

アンモンが述べているのは、王が聖霊の導きを継続的に得られるように、その備えとしてキリストの光が王に働きかけていたということであると思われます。ラモーナイ王と僕たちは、その後バプテスマを受けました。聖文のこの話の中では詳細に述べられていませんが、神の秩序に従い、その後で彼らは聖霊の賜物を授けられたと確信することができます(2ニーファイ31:14参照)。

聖霊の賜物を受けることによって与えられるもう一つの光が、アンモンの経験に示されています。アンモンは王の羊の群れを守るときに大きな力を示しました(アルマ17:36-37;18:2参照)。そしてその後、「神の御霊に満たされ、王の思いを見抜」きました(アルマ18:16)。

アンモンはさらに祝福を受けたことを次のように語っています。

「わたしはこの民にこれらのことを教えて、正しい真実のことを知らせるために、神の聖なる御霊によって召されています。」

そして、その御霊の一部がわたしの内にとどまっていた、神に対するわたしの信仰と望みに応じて、理解と力を与えてくれるのです。」(アルマ18:34-35)

## 発見と知性の光

キリストの御霊は、わたしたちが天と地の奥義を見いだそうとするときにわたしたちの知性を照らす力です(教義と聖約88:11参照)。ニーファイが「神の御霊が……男に働きかけ[た]」と述べているその男はコロブスであることを、わたしたちは知っています。また、「神の御霊がほかの異邦人[例えば、ピルグリムファーザーズ、ピューリタンなど]にも働きかけ、彼らが囚われの身の上から逃れて大海を渡って」行ったのも知っています(1ニーファイ13:12-13)。また、ニーファイが約束の地を求めたときに「荒野で……光」になると主がニーファイに約束された言葉もあります(1ニーファイ17:13)。

アルマは、多くの人の心が変わり、「永遠の御言葉の光に照らされ[た]」と記しています(アルマ5:7)。アルマはまた、次の聖句の中で光は「見分けがつく」と述べています。「おお、それならば、このことはほんとうではないだろうか。わたしはあなたがたに言う。確かにほんとうである。と。なぜなら、それは光だからである。光は何であろうと善である。というのは、そのように見分けがつくからであり、こうしてあなたがたは、それが善であることを必ず知るようになる。」(アルマ32:35)

世界の偉大な指導者たち、科学者たち、芸術家たち、哲学者たちの多くが、キリストの光の影響によって祝福を得てきました。1978年に大管長会は、「マホメット、孔子、宗教改革者などの」偉大な宗教指導者たち、また「ソクラテスやプラトン、そのほかの哲学者たちはすべての国民に光を与える神の光の一部を受けました」<sup>4</sup>と述べています。

ジョセフ・フィールドディング・スミス大管長(1876-1970年)はこう記しています。「これらの発見をした人は神からの靈感を受けている。そうでなければ決して発見できなかったであろう。主はエジソン、フランクリン、モールス、ホイットニーに、あるいはほかのすべての発明・発見家に靈感を与えられた。彼らは靈感によって必要な知識を得、世のために発明し、製造することができた。主の助けがなければ彼らもほかの時代の人々と同じように無力であったに違いない。」<sup>5</sup>

## 良心の光

キリストの御霊は数多くの方面で明らかに見られますが、恐らくその働きの中で

最も個人的かつ最も重要なのが、わたしたちの良心、すなわち「善悪をわきまえる」能力としての表れでしょう(モロナイ7:16)。わたしたちはまず自分の良心によって、「御自分の民の繁栄と幸いのためにあらゆることを行われる」天の御父の愛を感じるようになります(ヒラマン12:2)。

良心は時にはゆがんでしまうこともありますが、わたしたちは様々な面で自分の良心、キリストの光、すなわちキリストの御霊を感じるができます。誠実に生活していれば、善を行うように促す優しい招きとして自分の良心を感じるでしょう。誠実に生活していないとき、罪悪感の源として良心の呵責を受けるでしょう。

キリストの光に従えば心が安らかになり、より深い理解力へと導かれます。一方、正しいと分かっていることに反した行いをする、苦悩し、心が動揺するようになります。そのことが元でしばしばより大きな問題が引き起こされることもあります。概して大きな、険悪な問題は、ささいで単純なことから始まります。次に紹介する良心の促しの実例に心を留めてください。これはほとんどの人が認識できることです。

わたしは妻から、娘のレイチェルを寝かしつけるように頼まれていました。わたしはそうしなければならないことは知っていました。しかし、ほんとうはテレビでフットボールの試合を見たかったのです。わたしはすぐに妥協しました。娘をわたしの部屋に連れて行って、ポータブルテレビでフットボールの試合を見ながら、同時に娘を寝かしつけようと考えたのです。どちらの欲求も満足させることができます。カラーで見られない



世界の偉大な指導者たち、  
科学者たち、  
芸術家たち、  
哲学者たちの多くが、  
キリストの光の  
影響によって  
祝福を得てきました。



ことは残念ですが、良い父親であるために払う代価としては何と小さいことでしょう。

試合を見始めて2分ほどたったときに困ったことが起こりました。レイチェルがむずかり始めたのです。テレビを消して、娘を抱いて歩き、歌を歌ってあげれば、娘をなだめることができるといった思いが心にわき上がってきました。そうすることが正しいと知っていました。しかし、わたしはそうしたでしょうか。いいえ、それから30分間、試合を見ながらレイチェルを寝かしつけようと奮闘したのです。その間、わたしは自分がしたいと思ったことができなかつたのをまったく腹立たしく思っていました。

自分が持っている光と知識と逆らって行動する人々の特徴の一つは、自分の行動を正当化しようとすることです。これらの正当化は思いや感情、またある場合には表情や態度に表れます。箴言にこうあります。「愚かな人の道は、自分の目に正しく見える……。」(12:15) 娘レイチェルとの経験の中でのわたしの正当化は次のとおりでした。(1)わたしは一日中大変な思いをして働いているのだから、自分の時間が必要だ。(2)妻はわたしよりも赤ちゃんの扱いが上手だから、この場合も彼女が面倒を見るべきだ。(3)妻はわたしが行くことにすべて感謝しているわけではないので、わたしに娘の面倒を見させようとするのはまったく不公平だ。(4)わたしは疲れている。座ってくつろがなければならぬ。

わたしたちはしばしば、「罪」とは殺人や姦淫<sup>かんいん</sup>、そのほかひどい不道德な行為の形を取る悲しむべき事柄であると考えがちです。これらの行為は最も重大な罪ではありますが、聖文は、いかなるときにも、わたしたちが「なすべき善を知りながら行わなければ、それは……罪である」と教えています(ヤコブの手紙4:17)。わたしは起きて子どもをあやすことをしませんでした。つまり正しいと分かっていたことに逆らったのです。なかなか認めたくないことではありますが、ある意味でそれは罪です。<sup>6</sup>

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は次のように述べています。「人間の苦しみには、戦争、病氣、

貧困など、数多くの原因がある。これらのどれ一つを取ってみても、その苦しみは確かにとても大きいですが、わたしの義務を誠実に果たすためには、こう言わなければならない。中でも最も長く、最も大きな苦痛を伴うのが罪悪すなわち神の戒めに背く行為である。……もっと豊かで満ち足りた生活をするためにわたしたちに何ができるかももう少し詳しく知りたければ、まず自分の良心に問いかけていただきたい。」<sup>7</sup>

### 豊かな祝福

キリストの御霊がわたしたちに与えられており、善悪をわきまえることができるというのは、何という祝福でしょう。わたしたちの天の御父はこう約束してくださっています。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約50:24) 一人一人がその光を理解してそれに従うようにというモルモンの招きに心を留めるように、わたしは祈っています。「そこでわたしは……あなたがたに、善悪をわきまえることができるように、キリストの光の中で熱心に求めることを切に勧める。もしあなたがたが善いものをごとく手にして、それを非難しなければ、あなたがたは必ずキリストの子となる。」(モロナイ7:19) □

ダニエル・K・ジャッドは、ユタ州オレム・キャニオンビューステーク、キャニオンビュー第5ワードの会員です。

### 注

1. *Gospel Doctrine* (1939年) 67-68
2. *Articles of Faith*, 第12版(1924年) 488, 注3参照
3. *A New Witness for the Articles of Faith* (1984年) 262
4. 大管長会の声明, 1978年2月15日
5. 『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻, 第1巻, 142
6. 「良心」という言葉と「罪」という言葉についてより深い理解を得させてくれた同僚, C・テリー・ワーナーに感謝しています。
7. 『豊かで満ち足りた人生』『聖徒の道』1986年3月号, 8





# マイケルの書き置き

カミール・コール・ターベット

フォトイラストレーション/マット・ライアー

家族のだれにも、もうこんな思いは絶対にさせないと心に決めました。

その日の午後、母がどうしてわたしにあの書き置きを見せたのか、今でもよく分かりません。6人きょうだいのいちばん上で、高校卒業まであと1年を残していたわたしは、卒業して自活するのが待ち切れませんでした。模範を示さなくてはならないことや、両親が出かける度に弟や妹たちの面倒を見ることにうんざりしていたのです。

その日、マイケルの書き置きをわたしに見せることが、わたしのためにいちばんいいことだと、なぜか母には分かっていたのでしょう。わたしは3人の弟と2人の妹たちより早く学校から帰宅しました。正直に言うと、母に「見せたいものがあるの」と言われたとき、わたしはいらいらしました。

母の後について弟の部屋に入ると、母は枕もとにあった紙を取り上げました。11歳のマイケルの乱雑な字でこう書いてありました。「今日はもう家に帰

らない。ぼくはこの家の子じゃないから。」涙が頬を伝うのが分かりました。母が言いました。「今日はあの子を迎えに、学校へ行きましょう。」

胸が締めつけられて言葉が出ません。ただ母の方を向いてうなずき、「家族のだれにも、もうこんな思いは絶対にさせない」と決意しました。

学校に着いたとき、授業が終わったところでした。マイケルはわたしたちを見て驚いていましたが、うれしそうでした。彼は書き置きについて何も言いませんでした。それからは、書き置きを残すことは二度とありませんでした。

マイケルとわたしはいちばんの親友になりました。高校卒業後わたしは家を離れ、時には互いに数千キロも離れることもありましたが、わたしたちはずっと仲良しでした。

マイケルの書き置きを見た日、それは、わたしたちが「家族」と呼ぶ人たちほど

大切な人はいない、ということを知った日でした。□

カミール・コール・ターベットは、ユタ州スミスフィールド北ステーキ、スミスフィールド第12ワードの会員です。



かけ 危険です!

# 崖っ縁の生活



義の境界線は、  
罪の崖っ縁でもあります。  
悲しみの底に  
落ちるかもしれない危険を  
あえて置してはなりません  
(教義と聖約 1:31 参照)。

## 収入の範囲内で生活する

**地**と地のすべてのものは主のも  
 のです。けれども主は、御自  
 身の富の一部をわたしたち一  
 人一人に預けておられます。ジョー・J・  
 クリステンセン長老は七十人会長会の任  
 にあったときに、次のように説明してい  
 ます。「わたしたちが手にしている資産  
 は管理を任されているのであって、所有  
 物ではありません。わたしたちは文字ど  
 おり神の御前に呼ばれて、わたしたちが  
 それらの資産を使ってどのように人々に  
 恵みをもたらし、王国を建設したかにつ  
 いて報告することになる、とわたしは  
 確信しています。」「(「貪欲、利己心、甘  
 やかし」『リアホナ』1999年7月号, 11)  
 自分に任されているものが多い少ない  
 にかかわらず、わたしたちは、義にか  
 なった原則に基づいて責任ある管理を  
 行うことができます。

### 予算の管理

予算を立てるのが有益であることは  
 多くの家族が認めています(マービン・  
 J・アシュトン「家庭における財政管理  
 の指針」『リアホナ』2000年4月号, 42-  
 47参照)。予算を組むときにまず考える  
 べきことは什分の一と教会の献金です。  
 これらの献金によって、「貧しい者や苦  
 しんでいる者に持ち物を分け与え[る]」  
 義務を果たすことができます(教義と聖  
 約105:3)。正直に什分の一を納めるこ  
 とは王国の建設を助けるうえでとても大  
 切なことです。これは同時にわたしたち  
 自身の財政を守る最善の手段ともなり  
 ます。なぜなら主は、わたしたちがこの  
 戒めを守るならば、「天の窓を開いて」く  
 ださると約束しておられるからです(マ  
 ラキ3:10)。

主は様々な方法で天の窓を開いてく

ださいます。スペンサー・W・キンボ  
 ル大管長(1895-1985年)はこのように  
 説明しています。「主はわたしたちがも  
 っとよい給料……支出に当たったのも  
 っと賢明な判断力、……優れた健康……  
 [そして、]良い地位を得られるように大  
 いなる理解力を与えることがおできにな  
 ります。」「(The Teachings of Spencer  
 W. Kimball, エドワード・L・キンボ  
 ル編[1982年]212)

貯蓄を含む生活に必要な出費を予算  
 に計上したら、次に考えるのは、不可  
 欠ではないものの、あったらよいと思  
 う物事です。

### 人々と分かち合う

資産の最も価値ある使い方の一つは、  
 それをほかの人々に分け与えることです。  
 C・S・ルイスはこのように書いています。  
 「慈善の寄付がまったく不便や支障を来  
 さない程度なら、……その金額ではまだ  
 まだ不足だということです。慈善目的  
 に寄付したがために、したいと思うこと  
 ができなくなる状態であればなりません。」「(Mere Christianity [1952年]67。  
 『リアホナ』1999年7月号, 12で引用)

### 負債を避ける

負債ほど幸せを急  
 速にむしばんでいく  
 ものはありません。  
 社会や文化によっ  
 ては、借金はますます  
 しやすくなり、ま  
 すます是認されつ  
 つあります。しか  
 しわたしたち教  
 会員は、不

必要な借金を避けるようにとの勧告を長  
 年にわたって受けてきました。この世的  
 なものに対する執着心はほかの欲望と  
 同じように制さなければなりません。  
 「修繕するか、使い切るか、間に合わせ  
 るか、なしで済ませる」という開拓者の  
 モットーを実行するならば、収入の範  
 囲内で生活することは決して難しいこと  
 ではありません。

### 賢い管理人の祝福

ユタ州サンディーに住むジル・ジョ  
 ソンは、主が家族をどのように祝福し  
 てくださったかを次のように話してい  
 ます。「わたしたちは学生結婚でした。結  
 婚当初から、月々のわずかな収入を慎  
 重に予算を立てることによって何とか  
 やり繰りしていました。しばらくして、  
 家主から家賃を値上げすると言われま  
 した。わたしたちは祝福を求めて祈り  
 ました。翌日、我が家の古い車が故障  
 してしまい、修理しても直らないことが  
 分かりました。どうしてこのような試練  
 が一度に来るのでしょうか。けれども車  
 がなくなったことは祝福でした。家族や  
 友人の助けのおかげで、車なしでも生  
 活でき、さらに、ガソリン代とオイル代  
 で浮いたお金をそのまま家賃の値上げ  
 分に回せたからです。このように、従  
 順であれば、思いも寄らない方法で祝  
 福を受けることがあります。」

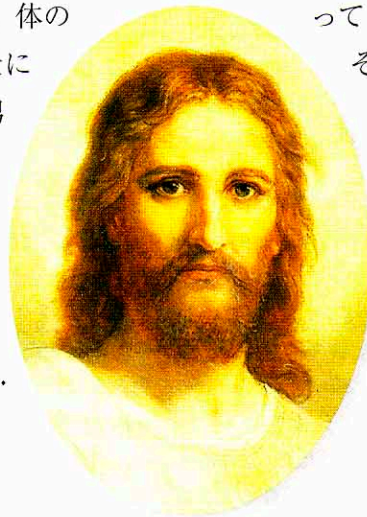
主はわたしたちの物質的、霊的な  
 福祉に心をかけておられます。

授かっている賜物を賢く管  
 理するように努力するな  
 らば、主がわたしたち  
 を助けてくださるでし  
 ょう。□



# 「あらゆる賜物……を 主に願い求める」

**わ** たしたちは毎日、神の賜物に恵まれています。わたしたちが祝福を受けるのは、愛にあふれた天の御父が子に養いを与えることを望んでおられるからです。本来霊的な性質を持つこれらの賜物の多くは、与えられても、しばらくの間気がつかなくなったり、理解していなかったりすることがあります。💖 これから紹介するのはそのような物語です。体の不自由を抱えながら、献身的な奉仕によって人々に祝福をもたらしている男性。はっきりとした理由もないまま幼稚園にいる娘を訪れた母親。独りで子どもたちを育てる力を見いだした若い母親。また、主から優しい手を



差し伸べられ、偶然と思われるような機会を与えられ、それによって最終的に教会に導かれた一人の青年。一つ一つの物語は御父がわたしたちを祝福したいと願っておられることを物語っています。💖 主の生ける預言者はこのような証と約束の言葉を述べています。「主は皆さんの力[であられます]。……あらゆる賜物と恵みと祝福を求めて、主に頼ってください。ひざまずいて祈りをささげ、それから立ち上がって主の御心を行い、主を信頼し、主への信仰を持ってください。そうすれば、神は皆さんを祝福してくださることでしょう。」(「生ける預言者の言葉」『リアホナ』2001年5月号, 16)

## 克服する意志 ホルヘ・フロレス

ルーのリマに住むカルロス・イエペス・ヨングは両足と右腕を動かすことができません。それに話をするのも困難です。けれども彼ほど強い人をわたしは知りません。彼が強いのは主の御霊のおかげです。話したり、教えたりするときに、彼の言葉は耳に麗しいのです。人の心を打つからです。

イエペス兄弟のまひは出生時に受けた損傷が原因でした。生まれてから5年間は、血管から栄養を補給されて生きているだけの状態でした。一部の担当医師はこのようなことをしてまで生か

すことに価値があるのだろうかと考えたそうです。彼らは主がカルロスに使命を与えておられることを知りませんでした。

カルロスは6歳になると、驚いたことに体を部分的に動かし始めました。こうして医学的な治療が始められました。知能は急速に発達して、数年後には同級生をしのぐほどになりました。しかし、肉体的な進歩は12歳を過ぎると幾分低下してきました。18歳のころに両親が離婚したため、カルロスの治療はそこで終わりました。

失望し、落胆しましたが、絶望感に打ちひしがれることはありませんでした。20歳のときに、近所の人から宣教師から福音を学ぶよう誘われました。すべてのレッスンを受けた後に、カルロスは祈り、心の中でよく考え、そして学んできたことが真実であるという霊的な証を受けました。バプテスマを受ける決意をしました。

バプテスマの水に沈められたときに、生活が完全に変わったとカルロスは言います。「わたしの使い物にならない腕と足が強められ、生気があふれてきたように感じました。その日、主がお与えになるならどのような召しであっても、召しを通して主に仕える決心をし

ました。わたしは『走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない』はずだからです。』(教義と聖約89:20)

体のまひはそのままでしたが、カルロスの霊は高められ、主から祝福されました。カルロスは集会に遅刻することなく出席し、教会教育システムが主催する成人対象の宗教クラスに出席しました。ペルー・リマ・ラスフローレスステーク、カハ・デ・アグアワードの若い男性第二副会長の召しを受けました。召しを受けたその週には、青少年をミューチャ

ルに誘うために車いすに乗って家々を訪問するカルロスを、人々は毎日、目にするようになりました。

それから何年かたった現在、カルロスはロスハルディネスワードに出席しています。主と主の福音に対する証はいささかも揺らぐことなく、ペルー・リマ神殿に定期的に参入し、ホームティー

**青少年をミューチャルに誘うために、家々を訪問するカルロスを、人々はよく目にするようになりました。**

ニングを行い、求道者を教える宣教師を助けています。彼の忍耐と証、主への信頼によって、7人のめいとおい、数人の友達が現在教会員となっています。彼の影響によって何人かの青少年と成人会員が教会に再び活発に集うように



なりました。カルロスは教会の集會に必ず出席し、ファイヤサイドにしばしば参加し、ワードの活動にも参加しています。障害によって制約を受けていると考える人がいるかもしれません。しかし、カルロスはステーキの青少年から、霊において勝利を得た指導者として尊敬を集めています。

ホルヘ・フローレスはペルー・リマ・ラスパルメラスステーキ、ラデラスワードの会員です。

## 「行って、ウェンディを見てきなさい」

ダーリーン・ジョイ・ニコルス

**長**女のウェンディは5歳になると毎朝幼稚園に通い始めました。ある日、わたしはウェンディを幼稚園に送り届けてから、買い物に出かけるため二人の幼い子どもたちに身支度させました。幼稚園にウェンディを迎えに行くのに間に合うよう買い物を片付けてしまいたいと思っていたので、気ぜわしく感じていました。こうして、片手に買い物リストを持ち、もう一方の手で二人の幼い子どもの手をつかんで、お店に出かけました。

それから20分も過ぎたころに、はっきりとした思いが心に浮かんできました。「ダーリーン、行って、ウェンディを見てきなさい。」わたしは「ばかばかしい、ウェンディは幼稚園に行っているから大丈夫よ」とその思いを打ち消して、買い物を続けました。間もなく、その思いがまた浮かんできました。「ダーリーン、行って、ウェンディを見てきなさい。」それは非常にはっきりしたもので

あったため、わたしはお店の通路の真ん中で立ち止まってしまいました。

わたしは買い物リストに目を向け、長くはじっとしていられない二人の幼い子どもに視線を向けると、「ばかばかしいわ。ウェンディはきっと大丈夫よ」と自分に言い聞かせました。そして歩き始めたのです。けれども、今度は力強く「ダーリーン、行って、ウェンディを見てきなさい」という言葉が心に響いてきました。

わたしは店員に、買い物を済ませに

また戻って来るからと言うと、お店を飛び出しました。その途端、激しい雷雨が起きました。ウェンディは雷雨におびえる子どもでした。けれども、幼稚園にいるから大丈夫なはずです。でも、何か恐ろしいことが起きたのではないかしらと心配になり始めました。幼稚園に急ぎました。何も異常は感じられません。

「行って、ウェンディを見てきなさい。」  
それは非常にはっきりしたもので  
あったため、わたしはお店の  
通路の真ん中で立ち止まって  
しまいました。



あらし  
嵐も去ろうとしていました。幼稚園の中まで入らなくてもいいのではないかと思いましたが、せっかく来たのですから、教室まで行って、何でもないことを自分で確かめることにしました。

ウェンディの教室の方に向かって角を曲がると、ドアが開いていて、ウェンディが戸口に立っているのが見えました。どうしたのかしら。どうして机に向かっていないのかしら。近づくとうェンディはにこりとしました。わたしは何と言っていいか分からずに、ただ娘を抱き締めました。

「ママ、きつと来てくれると思っていてわ」とウェンディが言いました。

そのとき、先生がやって来て、ウェンディにこう言いました。「どうして、お母さんのいらっしゃることが分かっていたの。」それから先生はわたしに、こう説明してくれました。雷と稲光でクラスが騒然となりました。園児たちを座らせようとしていると、ウェンディが席でお祈りをしているのが目に入りました。そしてウェンディはお祈りを終えると、大丈夫、お母さんが来てくれるように天のお父様をお願いしたからと先生に言いました。そして、戸口でお母さんを待っていていいかと尋ねたのです。

5歳の子どもの信仰の祈りによって、何キロも離れたお店から彼女のそばに行くように文字どおりわたしが呼び寄せられたことを知り、流れる涙を抑えることができませんでした。わたしはこの経験を天父に心から感謝しています。その日、ウェンディとわたしはともに、信仰と信頼についての教訓を神より学んだからです。

ダーリーン・ジョイ・ニコルスはミネソタ州バーズビルステーク、バーズビルワードの会員です。

## 子どもたちのために しっかりしなければ

エライザ・M・トーレス

12年の結婚生活の間に、6人の子どもたちに恵まれ、そしてわたしは夫と別れました。夫の母親は引き続きわたしたちと一緒に暮らすことになりました。けれども子どもたちはその後父親に1度会ったきりで、二度と会うことはありませんでした。

子どもたちはまだ幼くて、家族に何が起きたのかを十分に理解することはできませんでした。心の痛みを引きずりながらも、できるかぎり子どもたちを守る努力をしました。けれども離婚して数週間もたたないうちに、わたしは自分がとても傷ついていること、むなしく、孤独であることを感じていました。フィリピンの生まれ故郷で大勢の人々に囲まれて生活していたのですが、わたしはしばしば涙に暮れ、だれかに悩みを打ち明けて慰めてもらいたい気持ちをどうすることもできませんでした。様々な猜疑心さいぎしんにさいなまれ、わたしはすっかり混乱していました。はっきりとした自分の考えを持ったり、計画したりすることができませんでした。けれども、子どもたちのためにしっかりしなければならないことはよく分かっていました。子どもたちの生活がすべてわたしの両肩にかかっていると感じました。

打ちひしがれ、絶望を感じ、わたしはひざまずき、天父に3つのお願いをしました。それは健康と澄んだ心、それに自己憐憫れんびんや利己心のない精神的な強さでした。

祈りはこたえられました。フィリピンの困難な経済状況の中で、わたしは良

い収入に恵まれました。一生懸命働くほど収入が増えていきました。これでわたしたちの物質的な必要は満たされました。そして、子どもたちの母親であり父親であるわたしに必要とされる、澄んだ心と精神的な強さも見いだすことができました。

わたしは子どもたちを愛し、極力関心を注ぎました。日曜日と祭日はすべて子どもたちのために費やしました。怒りの気持ちで過去を振り返ってはならないこと、恐れを抱いて前を向いてはならないこと、十分な意識をもって自分の周囲を眺めることを子どもたちに教えました。子どもたちは、だれも憎んではならないこと、特にいなくなった父親を憎んではならないことを学んでいました。

また、互いに分かち合うこと、家族の一致を築くことも学びました。わたしたちは意見を交換し合い、家族の間で意見が異なってもそれを尊重するようにしてきました。お互いの勝利を喜び合い、敗北を慰め合いました。一致した家族でした。料理や掃除を一緒に行い、一緒に笑い、分かち合い、そしてとりわけ一緒に祈りました。

離婚してから7年後に、4人の子どもとわたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。教会の教えは子どもたちを強め、才能を伸ばしてくれました。さらに忍耐し、理解することを学びました。成長するにつれて、自分たちが持っているとは知らなかった指導力やそのほかの能力を見いだしました。子どもたちは平安と帰属感を味わっています。また、助けを求めてしばしば教会指導者のもとを訪れ、教育的、情緒的、そして霊的な勧告を受けています。教会の召しを熱心に果たし、教会

の活動に積極的に参加しています。子どもたちが霊的に成長し、社交面の技術を伸ばして、力強く成長しているのが分かります。

息子と3人の娘は専任宣教師として奉仕しました。彼らは伝道後も成長を続けて、すばらしい人物になる道を歩んでいます。

わたしは試練を通して強くなり、成長しました。ほかの方法では同じ結果を得ることは不可能だったと思います。疲れ果てたことが幾度もありましたが、天父はそのようなときに休息を与え、行くべき道に導き、わたしの心を愛で満たしてくださいました。

わたしは豊かに祝福されてきました。すばらしい家族をこよなく愛しています。大きな逆境を超えたその先に勝利がありました。けれども、すべては天父と御子イエス・キリストから授けられたものです。わたしたちの生活に主の力が及ぼされていることを、今後ずっと感謝し続けます。

エライザ・M・トーレスはカリフォルニア州サンノゼ東ステーク、ミルピタスワードの会員です。

## 失くしたパンフレット

ウェンセスラウ・サルグエロ

**わ**たしはグアテマラの小さな町エルプログレンで生まれ育ちました。10歳くらいのときに、珍しいパンフレットを手に入れました。永遠の父なる神と御子イエス・キリストの示現を見た少年、ジョセフ・スミスのお話が書かれていました。

わたしはその物語に大きな感動を覚

えました。両親の信じていた宗教による教育に対し満たされないものを感じていたわたしは、パンフレットの少年についてももっと知りたいと思いました。けれども、どこへ行ったら知ることができるのか分かりませんでした。そのうちにパンフレットはなくしてしまいましたが、パンフレットのことを忘れたことはありませんでした。同じようなパンフレットを見つけられないかとずっと探していました。

少年期から青年期にかけて、幾つかの宗派を研究しました。それらの宗派が教義を教える講義を受けて、終了証も取得しました。けれども、それらの宗教には納得できない面がありました。様々な宗派の聖職者が互いに批判し合う姿に幻滅を感じていました。そのころからわたしは聖書を読み始めました。聖書と、わたしが調べた宗派で実際に見たこととを比較してみることで、それらの宗派には神の権能がないことがはっきりと分かりました。

わたしは何度もひざまずいて、神のまことの教会に導いてくださるよう祈り求めました。もしそれがかなえられるなら、神の戒めを忠実に守り、神に仕えることを約束していました。

罪が赦されるならば何でもしますと神にお話ししている夢も見っていました。そのような夢を見たときは、朝起きてみると、枕が涙でぬれていることがよくありました。それから、ジョセフ・スミスのパンフレットを見つけられるようにと神にお願いもしました。

1968年には結婚して、息子が一人生まれていました。良い仕事を見つけるためにグアテマラシティへ引っ越ししました。1975年11月20日のことでした。清

楚な身なりをした二人のアメリカ人女性が我が家のドアをノックしました。二人はわたしの家族のためにメッセージを持って来たと言いました。改めて訪問してくれるように後日約束しました。

最初のレッスンを今でもはっきりと覚えています。若い女性の一人が祈り、それからもう一人の女性がジョセフ・スミスについて話し始めました。彼女が手にしているのは、わたしが少年時代に読んだことのあるあのパンフレットだったので。わたしの真理の探究は、我が家の居間で終わりを告げました。

そのときの気持ちをとても言葉では表現できません。彼女の手からパンフレットを奪いたいほどの気持ちでした。姉妹たちはパンフレットに注ぐわたしのまなざしに気づいて、一部プレゼントすると言ってくれました。その貴重なパンフレットを手にしたとき、わたしはとても信じられませんでした。肌身離さず持っておきたい気持ちから、シャツの胸ポケットにしまいました。

2日後に宣教師がまた来てくれました。パンフレットが胸のポケットに入っているのに気づいた姉妹たちは、読んだかどうかを尋ねました。このパンフレットがわたしにとってどれほど大きな意味を持っているかを知らないでしょうと姉妹たちに言いました。そして、少年時代にパンフレットを読んだこと、もう一度見つけられるように祈っていたことを説明しました。

日曜日になると、家族そろって教会へ行きました。早すぎるくらいの時刻に到着しました。姉妹たちはわたしたちを見て驚いていました。場所は教わったものの、招待はされていなかったからでした。



姉妹たちのレッスンはその後も続きました。姉妹たちはスペイン語をうまく話すことはできませんでしたが、聖霊によって教えました。そして、悔い改めについてのレッスンを受けたとき、わたしはそれまで味わったことのない気持ちを感じて、泣き始めました。気がつくと、皆泣いていました。わたしはまことの教会を見つけたことを確信しました。

妻のロサ・エリダも同じような経験をしていました。姉妹たちがわたしたちにバプテスマを受けるよう勧めたときでした。「サルグエロ姉妹、救い主に従いた

いと思いますか」と尋ねられたとき、彼女はそのような気持ちでいる自分に気づきました。

かつて、主の教会を見つけられるよう主をお願いしたとき、わたしは主に仕えることを約束していました。最初に教会へ行ったときから、ずっと忠実に集会に出席し、熱心に働くよう努力してきました。2度の監督をはじめとして多くのすばらしい召しを受けてきました。妻は初等協会、扶助協会、家族歴史プログラムで奉仕してきました。我が家の長男は専任宣教師の務めを終えました。今、そ

の弟が伝道の準備をしています。娘が二人いますが、そろって活発な会員です。

教会でお話の責任を与えられると、わたしはいつも、主の教会の会員として感じている喜びを伝えることに力を注いでいます。神が生きておられること、神は預言者ジョセフ・スミスを通して福音と教会と神権の権能を回復されたことをわたしは知っています。□

ウェンセスラウ・サルグエロはグアテマラ・グアテマラシティ・ボスケス・デ・サン・ニコラスステーク、ティエラスエバワードの会員です。

**若い女性の一人がジョセフ・スミスについて話し始めました。彼女が手にしているのは、わたしが少年時代に読んだことのあるあのパンフレットだったのです。**



# より良い家庭の夕べ に

## するために



**家**庭の夕べは、わたしたちが「互いに王国の教義を教え合[う]」ために、最も力を注ぐべき事柄です(教義と聖約88:77)。家族としてともに過ごすこの時間は、この世の喧噪や混乱から遠ざかることのできる機会となります。1, 2時間で、家族は互いに学び、強め合い、ともに奉仕し合うことができます。家庭の夕べを効果的に行うことは、わたしたちに与えられたチャレンジです。

以下は、家庭の夕べを改善した3家族の実例です。

### 家庭の夕べを ともに計画する

ペンシルベニア州ヨークステーク、チャンパーバーグ第1ワードのリサ・H・ファーネリアス姉妹は、レッスンの割り当てを受けたものの準備せずに家庭の夕べに臨み、土壇場でパニックに陥るといった状況を、家族はどのように防げるようになったかについて報告してくれました。家族はレッスンを前もって準備するための家庭の夕べを、定期的に関くことに決めました。祈りで始め、準備するうえで聖霊の助けを求めます。そして全員に以下のレッスン計画の見本を配ります。

1. テーマ——家族に何を学んでほしいか決める。
2. 導入——テーマを紹介するために、実物を使ったレッスン、クイズ、言葉探し、絵、パズルを一つ選ぶ。

3. お話——レッスンのテーマに添ったお話を一つ選ぶ。
4. 今週の聖句——レッスンに添った聖句を1節選ぶ。レッスン後の1週間、家族はその節を研究する。
5. 証——自分が教えた内容について感じている事柄を話す。
6. 活動——レッスンを補足するゲームや工作を選ぶ。  
教会の機関誌、聖典、賛美歌集、そのほかの教材を手の届く場所に置き、家族がレッスンを準備する際に活用できるようにしておきます。年長の子どもたちは自分たちで準備します。年少の子どもたちは親が助けます。家庭の夕べの時間までには家族一人一人が、視覚教材を用いたレッスンの準備が整っている状態となります。

### お母さんの メッセージ

ユタ州ハリケーンステーク、ハリケーン第4ワードのジャロリン・パラード・スタウト姉妹には10人の子どもがいます。全員が毎回順番でレッスンを教えると、両親が教える機会は2, 3か月に1度しかありません。ジャロリンとご主人はもっと家庭の夕べに参加したいと思っていました。そこで「お母さんのメッセージ」という新しい割り当てを作りました。

毎週レッスンの後、お父さんがお母さんにメッセージを

お願いします。短いメッセージを伝えるときもあれば、少し長い話し合いを行うときもあります。総大会の話強調することもあれば、家族の必要について採り上げることもあります。しばしば、家族のだれかがレッスンをした内容にちなんだ話をすることもあります。子どもが行うレッスンを手伝った日は、特にそうします。

スタウト姉妹は次のように報告してくれました。「我が家で『お母さんのメッセージ』はとても効果があります。子どもは喜んでくれますし、わたしたち両親にとっては、指示を与えるという家庭の夕べの側面を強める機会になるからです。」

### 子どもたちが 宣教師になるよう助ける

カリフォルニア州サラトガステーク、クーパーティーノワードのローラ・F・ニールセン姉妹は次のように語りました。「5人の子どもの親であるわたしたちは、伝道の機会に気づくよう子どもたちに教えています。毎週家庭の夕べで、それまでの7日間一人一人が宣教師となるためにどんな機会があったか、そしてその機会にどう対応したか、少しの間話し合います。」ニールセン家族はこのような状況をうまく対処する様々な方法について、家族で話し合うのです。

結果として、家族はどのようなことが伝道の機会となるのか学んでいます。例えば、教会について触れる際、通称ではなく正式名称を用いるということを学びました。子どもの一人は学校のレポートで教会歴史を採り上げました。別の子どもは、学校の教師が8歳の誕生日にお祝いの言葉をかけてくれたときに、バプテスマを受けた喜びについて話しました。

家族のだれかがせっかくの伝道の機会を見逃してしまったり、見過ごしてしまったりすることもあります。そのようなときは、どうしてそうなってしまったのか、また今後似たような状況が生じたときにどうすればよいかについて、家族で話し合う機会になります。ニールセン姉妹は言葉が続けます。「家族でやる気になれば、恥ずかしさや怠け心を克服するうえで助けとなります。今では子どもたちが積極的に自分たちができる伝道の機会を求めていますし、評価を受けようと熱意を込めて家族に報告してくれます。このように互いに助け合うことで、自分たちのできる方法で福音を分かち合う能力を伸ばしています。」□



# 人生という旅

## の中で学んだ教訓

わたしが知っているこの世でいちばん幸せな人は、  
満足と喜びを得るための必須の要件であると  
世が主張するものを、何一つ手にしていません。



十二使徒定員会  
ジョセフ・B・ワースリン

大学時代のことを思い出すのは、わたしにとってさほど難しいことではありません。大学時代に大好きなことはたくさんありました。勉強も大好きでした。級友とのつきあいも大好きでした。しかし、何と言ってもフットボールが大好きでした。

大学に入る前からずっと、わたしには夢がありました。それは大学レベルで、1年生から3年生までの間、深紅のユニフォームを身にまとい、ランニングバックとしてプレイするという夢でした。

当時、世界は大混乱の瀬戸際に立ち、ぐらついていました。敵対する政治勢力がいがみ合い、摩擦の度を深めていました。緊張が増大し、国家間のいらだちが激しくなっていたのです。それはまるで、全世界が今にも噴火しそうな(最終的には噴火することになるのですが)火山のごとくうなり声を上げているかのようでした。そのうなり声を聞いて、すべての国民、すべての人々があの暗黒の時代のもたらすもろもろの結果を感じ取っていたのです。

父がわたしのもとにやって来た日のことを今も覚えています。ちょうど1936年のフットボールシーズンが終わったころのことです。

「ジョセフ」と父は語りかけてきました。「伝道に出たいかい。」

わたしは「出たい」と答えました。

「じゃあ、今出なくてはだめだ」と彼は言いました。「少

**昔**、オーストリアのさわやかで澄み切ったクリスマス夜の夜、宣教師だったわたしは同僚とともに自分たちの目標や自分たちの人生で成し遂げたいことについて語り合いました。

し時期を延ばしただけで、もう出られなくなってしまうよ。」

わたしは父の言っていることを信じたくありませんでした。フットボールを続け、大学を卒業するという夢を追い求めたいと思ったのです。伝道の召しを受け入れたら、あらゆることをあきらめなければならないと思いました。当時、伝道の召しは30か月で、伝道に出れば、恐らくもう二度とフットボールができなくなるだろうということをわたしは知っていました。ひょっとしたら大学を卒業することすらできなくなるかもしれないのです。

しかし、わたしは父の言葉が正しいということも知っていました。わたしの監督は、後に教会の大管長会の一員となったマリオン・G・ロムニー長老(1897-1988年)でした。以前に彼と伝道に出ることについて話し合ったことがありました。そして、わたしは今がその時であるということ伝えるために彼のところに行きました。

それから数か月後、わたしは「マンハッタン」という名の蒸気船に乗り、危機的状況にある世界へとわたしを導く長い旅を開始したのです。わたしはドイツ・オーストリア伝道部に召されました。

最初の任地はオーストリアのザルツブルクでした。この伝道部には宣教師が少なく、わたしの同僚は、わたしが到着してから間もなく、伝道部内の別の地区に転任しました。やがて、気がつくとも未熟な宣教師だったわたしは見知らぬ新しい町、ザルツブルクに一人取り残されていたのです。

まだ話していませんでしたが、当時、もう一つの出来事が起こっていました。ヒトラー第3帝国の大規模な軍隊が、ザルツブルクから30キロと離れていない国境のすぐ近くに集結していたのです。行く先々で、緊張の高まりを感じ取





**もし本が海水から守られることが神の関心と呼ぶのに十分ふさわしいことであるとするならば、天父はどれほど皆さんの人生や必要に気づいておられることでしょうか。**

ることができました。明日になったらドイツの戦車が国境を越えてザルツブルクの町に押し寄せて来るかもしれない状況だったので。

当時のことをわたしははっきりと覚えています。わたしの人生でそのときほど意気消沈し、途方に暮れたことはないと思います。伝道は難しく、わたしのために、あるいはわたしの携えているメッセージのために、時間を割いてくれるような人は一人もいないように思われました。はたして、将来この町にワードを組織するために必要な会員数が集まるだろうかと思いました。

6週間、わたしは独りぼっちでした。6週間、同僚が送られてくるのを待ちました。6週間、もしソルトレーク・シティーに残って、勉学を続けていたらどうなっていたらうかと考えました。

その当時は、毎日毎日がまるで永遠のように長く感じられました。最終的には、その時間も過ぎ去っていきました。先輩同僚が到着し、置かれた状況の中で、わたしたちは全力を尽くして主に仕えました。

同じ年、クリスマスが近づいていたころ、同僚とわたしは美しいバリアンアルプスに位置する小さな村、オバンドルフまで歩いて行くことにしました。ジョセフ・モアが、1818年にこの小さくとも美しく荘厳な村に靈感を受けて、あのすばらしい賛美歌「<sup>きよ</sup>聖し、この夜」(『賛美歌』118番)を作詞したことは皆さんも御存じでしょう。

クリスマスイブに、わたしたちはこの村まで歩き、小さく質素な教会の中で美しいオルガン演奏を聞きながらしばらく座っていました。さわやかで、澄み切った冬の夜に浸りつつ、わたしたちは家路に就くことにしました。わたしたちは夜空いっぱい広がる星の下、降り積もったばかりの雪の広がる平安で静かな銀世界の中を歩いて行きました。恐らく、100年以上も前にジョセフ・モアに全キリスト教世界で最も愛される賛美歌を作詞するよう靈感を与えた

のも、そのような夜だったのでしょう。

雪の中を歩きながら、同僚とわたしは自分たちの希望や夢について語り合いました。自分たちの目標や自分たちの人生で成し遂げたいことについて語り合いました。話せば話すほど、自分たちの口にしたことを達成することについて真剣になりました。満月の明かりの下を歩きながら、わたしたちは二人とも真剣な思いで決意したのです。

その夜、わたしは自分に与えられた時間を決して浪費しないと決めました。主に仕える努力をしていこうと改めて思いました。主の王国で受けるあらゆる召しを全力を尽くして果たそうと決心したのです。

将来の結婚相手について決心したのもその夜でした。その女性の名前はまだ知りませんでしたが、自分の頭の中に伴侶の理想像を思い描いたのです。福音に従って生活していて、高い霊性を備えた人です。その女性の背丈は165センチで、目の色は青く、髪はブロンドだと、同僚に告げました。ワースリン姉妹は、そのとき彼女のことをまったく知らないでわたしが挙げたすべての条件と一致しています。このように、その夜はわたしにとってとても重要なものとなりました。

2年半の年月が過ぎ去り、気がついたら、わたしは家に帰っていました。だれかがある名前を口にすることを耳にしたときのことは今でも覚えています。その名前は、エリサ・ロジャーズといい、ホテルユタで行われた大学主催のダンスパーティーを担当していた若い女性でした。その名前に何か特別なものを感じました。そしてその女性に会ってみようと心に決めました。

初めて彼女に会ったときのことも覚えています。ある友人に頼まれて、彼女の家彼女の妹を迎えに行ったのです。ドアを開けて出て来たエリサにわたしは目を見張りました。美しい女性で、背丈は165センチ、青い目に、髪はブロンドでした。

彼女も何か感じたようです。なぜなら、「あなたのことが

前から知っていました」と言ってくれたからです。

すぐに彼女は「あたたのことは」を「あなたのことが」と言ってしまった文法上の間違いに気づきました。この出来事の意味がよく分かるようにお伝えしますが、エリサの専攻は英語だったのです。

何十年たった今でも、エリサはそのときの恥ずかしい経験を覚えています。言うまでもなく、この話を繰り返すのは、彼女がそのときのことを気にしなくなったからではありませんが、無断で紹介することは、きっと許してくれるでしょう。

いろいろな決心をしたオバンドルフでのクリスマスイブから、もう60年の歳月が過ぎ去りました。その間、数多くの経験をしてきました。フットボールに関するわたしの予感は当たり、二度とフットボールをする機会はありませんでした。しかし、大学を無事卒業できました。わたしは伝道に出たことや、主に仕えるために没頭したことを一度も後悔したことはありません。伝道に出たことにより、わたしの人生は冒険や、霊的な経験、理解を超えるほどの喜びに満ちたものとなりました。

ここにおられる皆さんの中には、人生のある時期に、少しがっかりしたり、独りぼっちだと感じたりする人がたくさんいるかもしれません。あるいは、少し途方に暮れたり、恐れを抱いたりする人がいるかもしれません。しかし、だれもがいつかそのような気持ちを感じたことがあるのです。だれもが自分の人生は最終的に幸福なものになるのだろうかと考えたことがあるのです。

2,000年以上も前に、アリストテレスは次のように語りました。「生きている者はすべて同じ目的を持っている。それは幸福になるということだ。」(『ニーコマコス倫理学』[Nicomachean Ethics]第1巻、第4章、7参照)80年の人生を経験して、わたしも人を幸福や成功に導く方法が幾つか分かるようになってきました。わたしは、もし真剣に考え、自分自身の人生に応用するならば幸福や成功、達成、そして日の栄えの王国における受け継ぎをもたらす5つの事柄についてお話ししたいと思います。

## 天父に信仰を持つ

まず最初に、天父に信仰を持ってください。天父は皆さ

んがだれなのか御存じです。皆さんが祈るとき、耳を傾けてくださいます。そして皆さんを愛しておられます。そして皆さんのことを心に掛けておられます。皆さんが最良の状態であるよう望んでおられます。

ザルツブルクでの任務が終わり、スイスのチューリッヒに転任となりました。その地で、教会の会員であるユリウス・ビレテル兄弟と知り合いになりました。彼は系図探求を職業としていて、これまでの調査でワースリンという姓を多く目にしてきた、と教えてくれました。そして、わたしの家系を調べてみましょうかと申し出てくれました。家に手紙を書いたところ、父はそれはとても良い機会だと考えました。こうしてわたしたちは彼を雇い、調査を開始してもらいました。

1年後、彼はわたしに1冊の本を手渡しました。その本は縦36センチ、横46センチ、重さは6キロもありました。そして6,000人近いわたしの先祖の名前が書き尽くされていました。その本はわたしにとって大切なかけがえのない書物となりました。伝道が終わる直前、わたしはその貴重な本をほかの荷物と一緒に汽船用トランクに詰め、家に送りました。そして無事に届くように、貴重な家族の歴史が失われることのないようにと祈りました。

わたしはトランクより前に家に到着しました。そして何週間もたちましたがトランクは到着しません。あのかけがえのない本がなくなってしまったのではないかと不安になり始めました。わたしがソルトレーク・シティーに到着して6か月がたったとき、わたしはユニオンパシフィック鉄道の駅から電話を受けました。わたしあてのトランクが届いたのです。トランクを取り戻すために駆けつけましたが、そのトランクを見た瞬間、わたしの心は沈みました。トランクの鍵は壊されていたのです。



**生活していくうえで、天父をまず念頭に置いてください。天父に従うと決意し、戒めに従い、日々キリストのようになる努力をしてください。**

トランクをこじ開け、中を見たとき、わたしの心はますます落ち込んでしまいました。すべてが海水でびしょぬれになっていたのです。さらにだれかが中身をあさったであろうことも分かりました。実際、なくなっているものがありました。

わたしは貴重な本を捜しながら、慎重に服を次々と取り除いてみました。そしてその本が出て来たとき、喜びで胸がいっぱいになりました。あっただけではなく、どのページもまったくぬれていなかったのです。わたしはその本が神の力によって守られたことを確信しています。

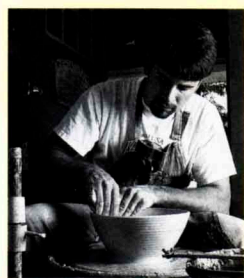
救い主はこのようにおっしゃっています。「2羽のすずめは1アサリオンで売られているのではないか。しかもあなたがたの父の許しがなければ、その1羽も地に落ちることはない。」(マタイ10:29-31)

またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。それだから、恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。」(マタイ10:29-31)

それと同じように、もし本が海水から守られることが神の関心と呼ぶのに十分ふさわしいことであるとすれば、天父はどれほど皆さんの人生や必要に気づいておられることでしょうか。

あるとき、トーマス・S・モンソン第一副管長はわたしにこのように言いました。「天には導いてくださる御方がいます。何か出来事があるとすれば、それは偶然ではありません。ある日、わたしたちの人生で偶然の一致に思えるような出来事について振り返ってみれば、結局、それは偶然の一致とは言えないということに気づくでしょう。」

主は皆さんの試練を御存じです。そして皆さんの勝利も御存じです。そして皆さんが「心をつくして主に信頼[し]、自分の知識にたよ[らず]、すべての道で主を認め[るなら]、……主はあなたの道をまっすぐにされる」でしょう。(箴言3:5-6)



**ゴードン・B・ヒンクレー**  
大管長はこう言っています。「労働こそが人生における違いを生じます。頭を使い、手を使うことで、わたしたちは人並み以上になることができるのです。」

## 義にかなった目標を定める

2番目に、義にかなった目標を定めてください。生きている間、多くの事柄があなたの注意を引こうとします。心をかき乱すものは限りなくあります。人も物も、富、快樂、権力という当てにならない約束をもって皆さんの注意を引こうとします。

「成功」というのは魅惑的な言葉です。そのテーマについて書かれた本が何千冊もあります。それらは金、自由、レジャー、ぜいたくを約束します。何千人の人が、富を築くための法則なるものを打ち立てました。例えば、富豪になるための3つの段階としてJ・ポール・ゲッティーは次のように提唱しました。「早起きをする。熱心に働く。石油を掘り当てる。」

もう少し現実的な法則も恐らく、ただ一つのテーマを変形させて提唱しているのでしょうか。つまり思いと行いのすべてを目標に集中させなくてはならない、と訴えているのです。心から熱烈にその目標を求めなくてはなりません。そしてその目標に全神経を集中させなくてはなりません。そしてその目標達成のために持てる限りのエネルギーを集中させなくてはなりません。

もちろん、義にかなった目標のためにこれらの法則を用いるならば、それはとても価値あるものかもしれません。ほとんどの場合における問題は、富、快樂、権力を求める結果、一見好ましい状況に導かれるのですが、いざその状況に近づけば近づくほど、求めてきたもののほんとうの姿が見えてきてしまうということです。世俗的な成功の代価を「長子の特権」で払うことがあまりにも多すぎるのです。世俗的な成功のために罪を犯す人は、いつかエサウのような気持ちを味わうことになるでしょう。エサウは自分が何を失ったか気づいたとき、「大声をあげ、激しく叫んだ」のです(創世27:34)。

また、成功にとらわれるようになると陥りやすいもう一つのわなは、人は自らの手腕と思考力に頼り、これまで自分たちを祝福し、榮えさせてくださった主を忘れてしまうことが往々にしてある、ということです。

モーセはある日、イスラエルの子らに言いました。「あなたは食べて飽き、麗しい家を建てて住み、

また牛や羊がふえ、金銀が増し、持ち物がみな増し加





ベン・カーソン博士はこう言いました。「決めるのは自分であるということが分かってきました。また行きたい所に行けて、したいことができるということも分かってきました。自分の成功を確定するのも制限するのも、自分にしかできないことなのです。」

したら、なんの得になろうか。」  
(マタイ16:26)

お金は必ずしも悪なのでしょうか。モルモン書の預言者ヤコブはその質問に答えています。ヤコブは自分の民にこのように教えました。「同胞を自分自身のように思いなさい。そして、すべての

人と親しくし、あなたがたのように彼らも豊かになれるよう、所有物を惜しみなく与えなさい。

しかし、富を求める前に神の王国を求めなさい。

キリストに望みを抱いてから富を求めるならば、富は得られるであろう。しかし富を求める目的は、裸でいる者に着せ、飢えている者に食物を与え、束縛している者を自由にし、病人や苦しんでいる者を救うなど、善を行うことである。」(モルモン書ヤコブ2:17-19)

モーセはその時代の人々にこのように語りました。「もしあなたの兄弟で貧しい者がひとりでも、町の内におるならば、その兄弟にむかって、心をかたくなにすることはならない。また手を閉じてはならない。」(申命15:7)

### 目標を達成するために努力する

3番目に、いったん義にかなった目標を定めたら、達成するために全力を尽くして努力してください。デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)は十二使徒定員会の会員だったとき、こう語りました。「努力する特権は賜物であり、努力するための力は祝福であり、努力に対する愛は成功をもたらすことを悟りましょう。」(Conference Report, 1909年10月, 94. 強調部分は原文のまま。)

努力は魂のための治療です。イエス・キリストの福音は努力することを教える福音です。わたしたちが怠けるとすれば、それは主の贖いを正しく理解していない場合が多いからではないかと、わたしは考えています。ただじっとしたまま何もしないで、霊的な成功やこの世的な成功を当て込むことなどできません。目標を達成するためには、自分の

わるとき、……

あなたは心のうちに『自分の力と自分の手の働きで、わたしはこの富を得た』と言ってはならない。……

もしあなたの神、主を忘れて他の神々に従い、これに仕え、これを拝むならば、——わたしは、きょう、あなたがたに宣告する。——あなたがたはきっと滅びるであろう。」(申命8:12-13, 17, 19)

この世で稼いだお金を、来世でも通貨として使用できるとお思いでしょうか。生活していくうえで、天父をまず念頭に置いてください。天父に従うと決意し、戒めに従い、日々キリストのようになる努力をしてください。天の宝を得るために、努力してください。もしそうしなければ、最終的には失意と悲しみを味わうことになるでしょう。

富を築くために努力した男に関する救い主のたとえを思い出します。その男はあまりにも多くの物を持っていたので、それらを保管しておく場所がありませんでした。それで男は倉を建て、それらを保管することにしました。男は資産のための安全な場所を確保するやいなや、隠居して、飲み食いして楽しみながら、娯楽にふけて暮らすつもりでした。

しかしその建物が完成したとき、「神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そうしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか。』」(ルカ12:20)

救い主がその時代の人々に投げかけられたこのはっとさせられる質問は、何世紀も経てわたしたちにも鳴り響いています。「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損

持てる力を出し切ってあらゆることを行う必要があります。そうすれば主は足りない部分を補ってくださるでしょう。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長の言葉を忘れないください。「天才が世の偉大な業を成し遂げるわけではありません。生活にバランスを保ち、非凡な方法で努力することを学んだ平凡な人が成し遂げるのです。」(“Our Fading Civility” プリガム・ヤング大学学位授与式での講話, 1996年4月25日, 15)

ある非凡な人について紹介しましょう。彼は自分の人生に責任を持ち、貧しい出でありながらも、ひとかどの人物になりました。その人の名前はベン・カーソン博士です。カーソン博士はデトロイトの貧しいスラム街に生まれました。そして母子家庭で育ちました。子育てはひとえに母親の責任だったのです。そして息子は母親譲りの責任感の強い人になりました。

母親がよく子どもたちに言った言葉をカーソン博士は教えてくれました。「頭があるんでしょう？」子どもたちが「あるよ」と答えると、このように続けて言いました。「それなら、そういう場合はどうすればいいのかわかんね、考えられたはずね。ジョニーやメアリーやほかの子たちがどうしたかなんて関係ないわ。あなたには頭があるんだから、問題をどう解決するか自分なりの方法を考えなさい。」

カーソン博士はこう言っています。「決めるのは自分であるということが分かってきました。また行きたい所に行けて、したいことができるということも分かってきました。自分の成功を確定するのも制限するのも、自分にしかできないことなのです。それが理解できてしまえば、被害者意識は遠のいてしまいました。だれかが自分のために何かしてくれるのを、ただじっと待っている必要などないと気づいたのです。」(“Seeing the Big Picture: An Interview with Ben Carson, M.D.,” *Saturday Evening Post*, 1999年7, 8月合併号, 50-51)

カーソン博士は、だれかが自分のために何かしてくれるのを、ただじっと待ったりはしませんでした。自分の人生を管理したのです。学業を続けて医者になるまで、学校で熱心に勉強しました。ついには世界的に有名な病院であるバルティモアのジョーンズ・ホプキンス小児センターで、小児神経外科の部長にまで昇格しました。1987年カーソン博士は史上初めて、後頭部が結合していたシャム双生児の切り離し手術に成功しました。

ソクラテスはこのように述べています。「努力という代価を払えば、神は人にあらゆるものをお与えになる。」(*Xenophon, Recollections of Socrates*, 第2巻, 第1章20節)

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はその意見に共鳴しています。「地上には生産的労働に取って代わるものなどありません。それは夢を実現させるための過程です。また愚かな空想が立派な達成に変わるための過程です。」

労働こそが人生における違いを生じます。頭を使い、手を使うことで、わたしたちは人並み以上になることができます。」(“Pres. Hinckley Shares 10 Beliefs with Chamber,” *Church News*, 1998年1月31日付, 3)

### 召しを尊んで大いなるものとする

4番目に、召しを尊んで大いなるものとし、忠実な教会員となってください。わたしたちが教会へ行くと、そこには戒めを守り、救い主に従おうと心に決めた人々がいます。

けれども教会には、完全なことを話し、非の打ち所のない思いを抱き、完璧な感情を持つ人々が集っていると誤解している人々が一部にいます。ここで、それが誤りであることをお話ししておきたいと思います。教会は、互いに助け合い、強め合うことによって、天父のもとへ帰るために努力をしている不完全な人々の集まりです。この世で、わたしたちはそれぞれに異なった道を歩んでいます。進歩の度合いは人によって違います。あなたの兄弟を苦しめている誘惑は、あなたにとっては何でもないものかもしれません。

あなたよりも不完全であるからといって決して人を見下してはなりません。あなたのように上手に話せないからといって、あなたのように導けないからといって、あなたのように奉仕できないからといって、あなたほど上手に繕え



**教会とは、不完全な人々が互いに助け合い、強め合うために集まっている所です。**

**ジョセフ・ミレットは、ニュートン・ホール家族の生活を祝福するのに自分を用いてくださるほど、主が信頼してくださっていることを知りました。**

ず、耕せず、輝いていないからといって、不快感を表してはなりません。

教会は神のすべての息子娘たちが神のもとへ帰るよう助け合うという目標の下に、人々が協力し合う社会なのです。神の王国であなたがどれほどの価値を持つ存在かを測る一つの方法として、次のように自問してみるとよいでしょう。「人々がそれぞれに持つ可能性を実現できるように、わたしは彼らをどれほど助けているだろうか。わたしは教会で人々を支えているだろうか。それとも人々を傷つけているだろうか。」もし傷つけているとすれば、あなたは神の王国を破壊しています。人々の成長を助けているのであれば、あなたは王国を建設しています。

王国におけるあなたの価値を測るもう一つの方法は、教会における召しを尊んで大いなるものとするために積極的に取り組んでいるかどうかを自問して見ることです。教会の召しを尊んで大いなるものとしていれば、あなたは形ばかりの奉仕をするのではなく、召されている立場で、心と、勢力と、思いと、力を尽くして奉仕しようと自分にチャレンジするはずで

す。教会で何の召しも受けていなければ、監督のもとへ行行って、喜んで奉仕したいことを、車を押すためにあなたの肩を喜んで貸したいと思っていることを伝えてください。

忠実に働くあなたの傍らには主がおられることでしょう。そしてあなたは主の御霊を感じ、主の手によって導かれていることに気づくことでしょう。

かなり前の総大会で、十二使徒定員会のボイド・K・バックャー長老はジョセフ・ミレットの物語を話しました。彼はわたしたちにあまりなじみのない教会員でした。

ミレット兄弟は教会の初期の時代の人で、ほかの信仰篤い教会員とともに砂漠を耕し、新しい故郷を築くために大平原を横断して、この地へ来ました。到着した最初の年は食物の乏しい状態が続きました。冬の間は特に過酷でした。冬を乗り越えるだけの食物がない人々が大勢いたのです。

ジョセフ・ミレットは日記に次のように記しています。



「うちの子が来て、ニュートン・ホール兄弟の家族はその日のパンがなくて、何も食べていないという。

我が家の小麦粉を分けて別の袋に入れ、ホール兄弟のところへ持って行かせようと思った。ちょうどそこへホール兄弟が訪ねて来た。

わたしが『ホール兄弟、小麦粉がなくなったのですか』と言うと、

『ミレット兄弟、何もありません』と言う。

『そうですか。ホール兄弟、この袋に幾らか入っています。今、これを分けて、これからお宅に持って行かせようとしていたところですよ。お宅のお子さんからうちの子が聞いていたのです。』

ホール兄弟は泣きだした。ほかを当たってみたのだが、だれからももらえなかったと言う。それで杉林に行き主を祈ったら、主がジョセフ・ミレットのところへ行くように言われたそうだ。

『ホール兄弟、お返しは要りませんよ。主がわたしのところへ来るようにおっしゃったのなら、借りなどなしです。』

その夜遅く、ジョセフ・ミレットは日記にすばらしい言葉をつづっています。「何とすばらしいことであろうか。主は、ジョセフ・ミレットという人間がいることを覚えてくださった。」(ジョセフ・ミレットの日記〔自筆〕末日聖徒イエス・キリスト教会歴史部記録保管庫蔵;ボイド・K・バックャー「教会員への賛辞」『聖徒の道』1980年7月号、95で引用)

主はあなたを信頼し、愛しておられるので、人々に祝福をもたらすためにあなたを遣わしたいと考えておられます。このことを知ったときの感動は実にすばらしいものです。

**自**分が何者かを見いだすことに心を悩  
ますのでなく、あなたが望むような人にな  
ることに努力を集中させてください。あ  
らゆる瞬間が大切です。すばらしい人生  
を造り上げることを今、決意してください。

兄弟姉妹、天父はこの目的のために皆  
さんを用いたいと考えておられます。  
召しを尊んで大いなるものとし、善を  
行うならば、主はあなたに満足と喜び  
という祝福を豊かに注がれることをわ  
たしは約束します。受け入れる余地が  
ないほど多くの祝福が与えられること  
でしょう。

### 旅を楽しむ

5番目に、人生という旅を楽しんでください。神の民は  
喜びにあふれる民です。わたしたちは厳肅な時があり、  
敬虔な時があり、献身する時があることを理解しています。  
わたしたちは永遠の命という喜びの原則を手に行っているこ  
とも理解しています。

わたしたちはほほえみを浮かべ、幸福感に浸り、笑い声  
を上げるだけの、多くのものを持っています。

多くの人々は幸福になることを待ち続けています。「何と  
かして卒業できれば、何とかして車を買えたら、何とかし  
て結婚できたら、……」と。多くの人々にとって幸福は決して  
到達することのない水平線のかたににあります。丘を越  
えても越えても幸福は次の丘へ移動してしまうようです。

わたしたちに満足をもたらしてくれるものを手にすること  
ができるのはいつの日か遠い先だと思いついでいるため  
に、常に明日を待ち、常に明日に託し、今日できないことを  
いつも言い訳していることほど恐ろしいことはありません。

明日まで待つことのないようにしてください。良い仕事、  
すばらしい家、満足できる給料、あなたのサイズに合うド  
レスを明日まで待っていてはならないのです。今日、幸福  
であってください。今、幸福であってください。

エーブラハム・リンカーンはこう言いました。「ほとんどの人  
は、自分が今幸福だと心に強く思えば幸福なのだ。」(ジョ  
ン・クック編、*The Book of Positive Quotations* [1997年]7)

皆さんは今幸福であることをはっきりと意識してください。  
お金がなくても、目鼻立ちが整っていないなくても、ノー  
ベル賞を受けていなくても、自分が幸せであることを知っ  
てください。わたしが知っているこの世でいちばん幸せな  
人は、満足と喜びを得るための必須の要件であると世が



主張するものを、何一つ手にしていません。では、彼らは  
なぜ幸せなのでしょう。わたしが思うに、彼らはそのよ  
うな事柄にあまりよく耳を傾けない人であるか、あるいは、  
自分の心が告げる言葉によく耳を傾ける人です。彼らは地  
球の持つ美しさに目を留め、川や溪谷、マキバドリのさ  
えずりに喜びを見いだします。彼らは家族の愛、幼い子ど  
ものよちよち歩き、老いた人々の知恵と優しいほほえみに  
喜びを覚えます。

彼らは正直に働くことを喜びとし、聖文に喜びを見いだ  
し、聖霊の導きに喜びを感じます。

この世の時は瞬間間に過ぎ去ってしまいます。わたしは  
それが真実であることを知っています。ベンチにじっと座  
って人生の過ぎ去るのを眺めるばかりで、時間を無駄にす  
ることのないようにしてください。

皆さんに一つ助言したいことがあります。それは笑い飛  
ばず姿勢です。マシュー・カウリー長老(1897-1953年)は  
十二使徒定員会に召されたときに、J・ルーベン・クラーク  
副管長(1871-1961年)から事務室に呼ばれて、新しい責  
任について助言を受けました。クラーク副管長は教会の偉  
大な指導者であり、思索家の一人でした。合衆国の駐メ  
キシコ大使の地位を捨てて、大管長会の一員として働く  
召しを受けました。彼は長年にわたって数多くの重責を果  
たしてきた人でした。

カウリー長老とクラーク副管長の会話も終わりに差しか  
かったころ、クラーク副管長はこう言いました。「さて、息  
子よ。[クラーク副管長は十二使徒定員会の会員をこう呼  
んでいました。]さて、息子よ。規則その6を決して忘れて  
はいけませんよ。」カウリー長老は尋ねました。「規則その6と  
は何ですか。」クラーク副管長は答えて言いました。「自分  
のことを深刻に考えすぎてもいけないということですよ。」  
カウリー長老は再び尋ねました。「ほかの5つの規則はど

のようなことですか。」するとクラーク副管長はこう言ったのです「この規則はその6しかないのですよ。」(Matthew Cowley Speaks[1954年]132-133)

一部の人は自分についてあまり深刻に考えすぎるために、満足感を得られず、「自分が何者かを知る」まで追求しようとしています。家族や仕事、教育を放棄してまでも、自分が何者かを探求する人がいます。

ジョージ・バーナード・ショーはこう言いました。「人生とは自分を見いだすことではなく、自分を造り出すことなのだ。」自分が何者かを見いだすことに心を悩ますのでなく、あなたが望むような人になることに努力を集中させてください。そのような道を歩み続けていると、「自分が何者かを見いだす」だけでなく、見いだした自分にうれしい驚きと誇りを覚えることもあるでしょう。

引き延ばしにはなりません。あらゆる瞬間が大切です。すばらしい人生を造り上げることを今、決意してください。

少し前に、わたしは伝道を始めた地をワースリン姉妹とともに訪れる機会がありました。オーストリア・ザルツブルクステークを組織するのがわたしの任務でした。それはわたしにとってある意味で、故郷に帰る旅でした。小石が敷き詰められた通りを歩きながら、たとえ小さくてもワードができるほどの教会員が生まれるだろうかと考えた日々を思い起こしました。それから歳月を経て、わたしはここにステークを組織しようとしていました。集まった信仰篤い会員たちを目の前にし、わたしがそこで過ごした日々を思い起こしたときに、万感胸に迫るものがありました。

今、そのときのことを振り返ってみますと、試練と孤独の日々がわたしの性格を強め、成功への意欲を増し加えたのではないかと思います。挫折感を味わっていた日々が実はわたしの人生で最も大きな役割を果たしていたのかもしれない。なぜならば、それらの日々はその後の人生で起きた大いなる事柄への備えとなったからです。

オーストリアに滞在中、わたしは妻とともにオバンドルフを訪れました。ずっと昔に同僚とともに歩いたその道を歩きました。そして、壮大な山々とその汚れのない美しさを背にして、ババリアンアルプスに位置する小さな村がありました。聖なる夜に、結婚すると同僚に言った女性の話を再び妻に話しました。

オーストリアのオバンドルフで聖夜に行った決意はわたしの人生を通じて指針となってきました。わたしにはまだ学ぶこと、成し遂げるべきことがたくさんありますが、わたしは神を信じて最善を尽くし、人生で大いなる事柄に集中するために力の限りを尽くし、義にかなった務めを果たすために全力で働いてきました。また、教会で受けた召しを尊んで大いなるものとするために、そして楽しんで人生の旅を歩むためにも全力を尽くしてきました。

皆さんも、自分の持つ神聖な受け継ぎにふさわしい人生を築くために、最善を尽くしてください。

遠いヨーロッパで果たした使命の目的と同じ目的を今わたしはここで果たすつもりです。それは愛にあふれる天父とその愛される御子、偉大な贖いの業をわたしたちのために成し遂げられたイエス・キリストが生きておられることを証することです。ジョセフ・スミスが神の預言者であって、完全な不変の福音を受け、この末日に主の教会を設立したことを証します。ゴードン・B・ヒンクレー大管長が現在の神の預言者、聖見者、啓示者であることを証します。

皆さんが義にかなった望みを追求するときに、主は皆さんとともにおられ、道を示してくださいます。主は皆さんの幸福と成功を望んでおられ、主のもとへ行くことを望んでおられます。皆さんが人生という旅の中で平安と喜びを見いだすことができますように。□

(この記事は、1999年11月7日にブリガム・ヤング大学で行われた教会教育システムファイヤサイドの説教を基に書かれました。)



**神**の民は喜びにあふれる民です。わたしたちはほほえみを浮かべ、幸福感に浸り、笑い声を上げるだけの、多くのものを持っています。



# 苦難の末、一つとなった家族

ディーン・M・ミューレン

わたしの家族はばらばらになりかけていました。それぞれの生活もすさんでいました。そんなとき、母は昔のことを思い出し、解決策を見いだしました。

わたしは兄たちや姉と同様、幼いころから神を信じるよう教えられ、夕食のときには祈っていました。けれども、それはわたしたちへの宗教上の教育のためといった程度でした。母は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として育ちましたが、父は違いました。たぶん、二人とも長年の間に、宗教のことで言い争うよりは、その話題を避けた方が無難だということに気づいたのでしょう。

わたしは末っ子です。兄たちや姉はわたしよりもずっと年が上で面倒見がよく、わたしは物事というのは簡単に運ぶものだと思っていた。

小学校の低学年のころ、わたしの成績はとても良かったのですが、学年が進むにつれ、成績が下がり始めました。両親はよく、わたしをどのように助けたらよいか話し合っていました。

両親はわたしに宿題をさせようとしたのですが、効果はありませんでした。学校の先生、指導職員、校長、両親は罰を与えると言って強く迫りましたが、成績は年々下がっていき、中学1年生になったころにはどうしようもない状態になっていました。

その年、わたしの家族はばらばらになってしまいました。クリスマスの2週間後に両親は別居し、後に離婚しました。



上の兄二人と姉は学校を卒業し、引っ越して行きました。そのため、家には母と兄のリーとわたしが残りました。リーは高校の最終学年でした。さらに追い打ちをかけるように、家族は経済的に大きな問題を抱えていました。母は、わたしたちが最も困難な状況を迎えたと思っていました。しかしそのころに状況が好転し始めたのです。

ある日、母とわたしは真剣に話し合いました。母が教会で受けた教育について話し合い、母は神に助けを求められることを知っていると言いました。また、わたしが教会に行けば、学校での成績も向上くかもしれないと思う、とも言いました。わたしは末日聖徒の友達と2、3回教会に行ったことがあり、ほかの教会の聖書教室にも行ったことがあるものの、わたしが生まれる以前からずっと、家族はもう教会には行っていませんでした。母は離婚したことと収入を失ったことで思い悩んでいたもので、わたしはこれ以上母の問題を増やしたくないと思いました。それで宣教師から福音を学ぶことにしました。

母はリーにも宣教師がするレッスンを一緒に座って聞くように勧めましたが、リーは学校の活動に熱中していました。最初のレッスンには参加しましたが、それからは長老たちが訪問するときにはいつも何か用事があるようでした。母とわたしは教会に出席するようになり、状況が好転しそ



うな感じがしてきました。わたしはその年の春にバプテスマを受けました。学校でも熱心に勉強するようになりました。勉強に熱が入ると、さらに良い気持ちができるようになりました。

教会に入る前、わたしはたばこやアルコールを口にし、一緒にいると気楽になれる人たちとつきあっていました。皆、学校の成績が悪く、放課後よく一緒に居残りをさせられていた人たちです。しかし監督と面接をし、バプテスマを受ける決心をしたとき、わたしは知恵の言葉に従う約束をしました。わたしは神権を持ち、<sup>せいさん</sup>聖餐のパスをし、常に問題を起こすより善いことをして褒められる方が楽しいと気づきました。このような前向きな気持ちは、教会以外の生活にも影響を及ぼすようになりました。そして自分の証を友達に伝えるようになると、ほんとうの友達がだれか分かるようになりました。

兄のリーは学校を卒業すると、陸軍に入り、すぐにホームシックにかかりました。リーは毎日家にあてて手紙を書き、母はその手紙を読んで泣きました。母はリーに末日聖徒のワードがないかどうか探すように言いました。わたしたちはリーのために祈り、リーにも祈るよう勧めました。祖母が卒業祝いとしてリーに聖書を贈っていて、リーはなぜかそれを荷物に入れて持って行っていました。後になって分かったことですが、軍隊の基地では読み物は宗教関係の本だけが許可されていたのです。リーがそのことを母に話すと、母はモルモン書を送りました。その後間もなく、わたしたちはリーが聖典をどれほど楽しく読んでいるか、そしてほかの兵士にも読んで聞かせている様子について書いた手紙を受け取るようになりました。母がもっと泣いたのは、言うまでもありません。母がリーに宣教師からレッ

スを聞きたくはないかと尋ねると、すでに監督にレッスンを始めてもらうよう頼んだという返事が届きました。リーは休暇で家に帰ったときにバプテスマを受け、またしても母は泣きました。

バプテスマを受けて2年たちましたが、その間わたしは執事定員会会長と教師定員会会長として働きました。学校ではアカデミック・チームに入っていて、スポーツもさせてもらうのに十分な成績も取っています。昔つきあっていた人たちとも友達でいますが、あまり一緒に出かけることはなくなりました。良い関係ではいますが、今は

お互い違うことに関心があるのです。わたしはミューチャルに参加していて、学業に専念しています。

母もほんとうに変わりました。たばことお酒をやめ、<sup>じゅうぶん</sup>什分の一を納めるようになりました。経済的な問題がすべて解決したとは言えませんが、いつも請求書の支払いは済ませています。母とわたしはとても良い友達になり、今は母がわたしのセミナー教師です。母は去年の夏神殿にも参入しました。去年母は命にかかわる病にかかり、回復にかなりの時間を要しました。それはわたしたち二人にとって怖く、つらい経験でしたが、長老たちが母に祝福をしてくれたおかげで、力を合わせて克服することができました。

わたしと母と兄が経験した変化は簡単には起こりませんが、ほんとうに価値ある経験でした。母は今でも泣くことがあります、それは幸せの涙です。そして母と同様、わたしも幸せです。□

ディーン・M・ミューレンはアイダホ州ボイシ南ステーク、ボイシ第3ワードの会員です。



# いつもわたしの 友でいてくださる御方

ベッキー・プレスコット

壁にかかったその絵を見上げるまで、  
わたしは新しい環境になじめず、  
じっと孤独を感じていました。



**わ**たしは日曜日の若い女性のクラスに向かいながら、孤独を感じていました。わたしたち家族は、遠く離れた小さな町に越して来たばかりだったのです。知り合いもなく、親戚も皆数千キロも離れた所に住んでいました。

わたしは席を探すと、壁際の2列目のいすを見つけました。着席してみると、わたし以外は皆だれかと一緒に座っていました。時間がたてばわたしにも友人ができて、状況は変わると自分に言い聞かせました。でも、何度そうしてみたところで、孤独感をぬぐい去ることはできませんでした。

レッスンも半ば過ぎたころ、わきの壁にかかったイエス・キリストの絵に気づきました。その瞬間、わたしは孤独ではないことを悟ったのです。まるで救い主がずっとわたしの隣に座っておられたような気持ちを感じました。

この新しい町になじんで、友人を見つけるまでには時間がかかりました。時々、孤独になることはありましたが、救い主の絵を見て自分が決して一人ではないことを悟った、あの日曜日を決して忘れることはありませんでした。イエス・キリストはいつもわたしの友でいてくださいます。□

ベッキー・プレスコットはユタ州サンタクインステーク、  
サンタクイン第1ワードの会員です。

# 『リアホナ』2001年5月号 の活用法

『リアホナ』の今月号の記事から、レッスンや話し合いの助けとなるアイデアが見つかるかもしれません。(右側の数字は今月号のページ数です。「F」は「フレンド」の略です。)

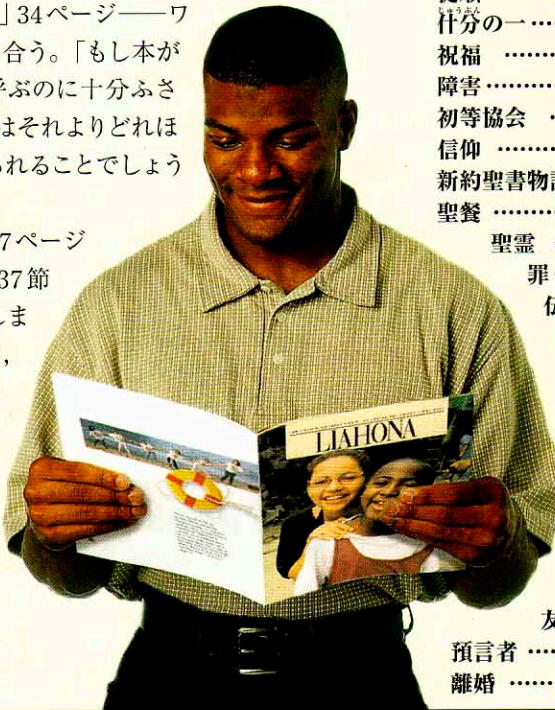
## 活用のアイデア

■「主の灯台」2ページ——モンソン副管長は、目的をもって将来の計画を立てるように提案しています。家族や生徒たちに、この世での目的を達成するための目標を立ててもらいます。適切であれば、その目標を発表してもらいましょう。

■「人生という旅の中で学んだ教訓」34ページ——ワースリン長老の次の質問について話し合う。「もし本が海水から守られることが神の関心と呼ぶのに十分ふさわしいことであるとするならば、天父はそれよりどれほど皆さんの人生や必要に気づいておられることでしょうか。」

■「いつも友でいてくださる御方」47ページ——ローマ人への手紙第8章35節と37節から39節を読み、救い主から離れてしまったと決して感じないようにするため、自分たちに何ができるかについて話し合う。

■「あきらめないで」F7ページ——トレーシーがあきらめずに進んで前に行って証を述べたことが、バプテスマを受ける許可に結びついたことについて、あなたはどのように思いますか。



## 今月号に採り上げられている項目

愛	23
証	F7
アロン神権	8, チャーチ・ニュース
イエス・キリスト	8, 47
改宗	26, 44
家族関係	23, 44
家庭の夕べ	32, 48
家庭訪問	25
キリストの光	8, 47
幸福	34
財政	25
仕事	34
従順	24, F2, F4, F8
汗分の一	25
祝福	26, F2
障害	26
初等協会	F2
信仰	2, 34
新約聖書物語	F12, F14
聖餐	8, F8
聖霊	18, 26
罪	24
伝道活動	F10
忍耐	F7
バプテスマ	F7, F8
フェローシップ	10
ブラジル	10
奉仕	26
ホームティーチング	7
召し	34
メルキゼデク神権	チャーチ・ニュース
目標	2, 34
友情	2, 47
預言者	14, F2
離婚	26

## 青少年の記事を募集しています

青少年読者の皆さんは、ヒンクレイ大管長が提示した6つのBを生活の中でどのように実践していますか。また、実践した結果、どのような祝福を受けていますか（「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30-41参照）。あなたの経験を書いて、**Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA** またはEメールで **CUR-Liahona-IMag@ldschurch.org** までお送りください。必ず氏名、年齢、住所、電話番号、所属ステーク/地方部、ワード/支部名を明記してください。

# ブラジルで奉献された二つの神殿



ブラジル北部に完成したレシフェ神殿はオープンハウスに訪れた7万8,000人以上の人々を魅了した。この神殿は1978年に完成したサンパウロ神殿以来、ブラジルで2番目の神殿となる。

写真/クレミソン・カンボス

## チャーチ・ニュース

**ゴ**ードン・B・ヒンクレ大管長は2000年12月に大管長会のジェームズ・E・ファウスト第二副管長を伴い、ブラジル・レシフェ神殿とブラジル・ポルトアレグレ神殿を奉献した。これらの神殿は、神殿建設が飛躍的に進められた2000年の最後に奉献された神殿である。

二つの神殿の奉献はファウスト副管長にとって特に感慨深いものとなった。ファウスト副管長は1939年から1942年までブラジルで宣教師として奉仕したからである。当時、南アメリカのこの国には約800人の会員を数えるにすぎなかった。しかし現在、ブラジルの会員数は約80万人に膨らんでいる。

この旅行でヒンクレ大管長とファウスト副管長はプエルトリコとパナマに立ち寄り、集った会員たちを前に話をしている。

### ブラジル・レシフェ神殿

ヒンクレ大管長とファウスト副管長は12月15日に行われたレシフェ神殿の奉献に当たり、それぞれ2回のセッションを管理した。奉献の祈りの中で二人はこのように願い求めている。「あなたの御業みわざが大きく、驚くべき方法で成長を遂げてきたこの偉大な国家ブラジルを受け入れ、豊かな祝福をお与えください。この国の経済が発展しますように。国の隅々にまで平和が行き渡りますように。

あなたの使者である宣教師がこの地で歓迎され、彼らの働きが大きな実りをもたらしますように」。

大管長会の二人に随行したのは七十人で、ブラジル北地域会長会のクラウディオ・R・M・コスタ長老、ロバート・S・ウッド長老、ダーウィン・B・クリステンソン長老である。

1978年にサンパウロ神殿が奉献されて以来、ブラジルで二つ目の神殿となるブラジル・レシフェ神殿の奉献には7,000人以上の会員が出席した。旅費と、72時間の旅行という障害に阻まれていた多くの会員たちにとってこの神殿は大きな恵みとなることであろう。

庭園と果樹、やしの木に囲まれ、見事なまでに美しいこの神殿は、11月11日から12月2日までオープンハウスを開催し、訪れた7万8,386人を魅了した。これらの訪問者の中には、あまり活発でない会員やほかの宗派の信者が数千人含まれている。

「教会はこの地において、もっと強くなると思います。オープンハウスに出席したことによって、教会員でない多くの家族が教会についてもっと知りたいと言ってきており、またあまり活発でなかった大勢の教会員が教会に戻りたいと言っているからです」と地元の広報代表者クレト・オリベイラは述べている。



ポルトアレグレ神殿の定礎式に参加する  
教会指導者と会員たち。

写真/大管長会事務局の厚意により掲載

### ブラジル・ポルトアレグレ神殿

12月17日に奉献されたポルトアレグレ神殿は現在儀式を執行している102番目の神殿となり、2000年に奉献された最後の神殿となった。「この神殿地域で増え続けている聖徒たちに祝福が与えられて、彼らがあなたの宮に参入する資格を得、またそのふさわしさを持ち続けることができますように。……この偉大な国家ブラジルにあなたの祝福が注がれますようにお祈りします」とヒンクレー大管長は奉献の祈りの中で述べた。

ヒンクレー大管長とファウスト副管長を奉献式に迎えたのは、七十人で、ブラジル南地域会長会のJ・ケント・ジョリー長老、アトス・M・アモリム長老、アデマール・ダミアニ長老である。

神殿の奉献式には7,500人以上の末日聖徒が出席した。この神殿は市内を見下ろすすなだらかな丘陵地の美しい地域に建てられている。12月2日から9日まで開かれた神殿のオープンハウスには2万5,000人以上の訪問者が詰めかけた。

ファウスト副管長は奉献式で、宣教師としてポルトアレグレに到着したときの様子を語った。当時、教会員は全市でわずか6人を数えるのみだった。その中に1938年12月17日にバプテスマを受けた若きオルガ・ビング・ビーフルがい

た。彼女が夫とともにポルトアレグレ神殿の奉献式に出席したのは、彼女がバプテスマを受けてからちょうど62年目に当たる。ビーフル姉妹は自分の住んでいる町に神殿ができたことに喜びと驚きを表していた。

### プエルトリコでの集会

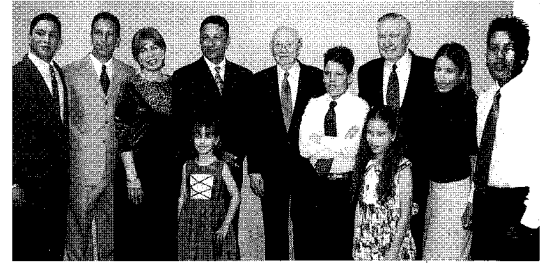
ヒンクレー大管長はブラジルに向かう途中、12月13日にサンファンに降り立った。これは大管長にとって初めてのプエルトリコ訪問となる。遠くは合衆国領バージン諸島からやって来た約3,300人の会員たちはヒンクレー大管長とファウスト副管長の言葉を聞くために大円形会議場集った。ほかに七十人で、北アメリカ南東地域会長会の会長と第一副会長を務めるリチャード・D・オールレッド長老とゴードン・T・ワッツ長老、プエルトリコ・サンファン伝道部のデーン・M・デービス部長が話をした。

ヒンクレー大管長はイエス・キリスト、預言者ジョセフ・スミス、回復について証を述べた。「わたしが皆さんの前に立って、この偉大な大義と王国の真理について証を述べたこの集会を忘れることのないよう、希望し祈っています」と大管長は語った。「わたしたちの永遠の父なる神は生きておられます。イエスは生ける神の御子キリストです」。

大管長はまた、神殿に参入するためにふさわしく生活するよう会員たちに強く促している。「今晚ここに集ったすべての男女に申し上げます。主の宮に行くことができる日のために準備してください。皆さんはそうしなければならないのです。神殿の儀式なしに福音は完成されません」。

ファウスト副管長はもっと多くの専任宣教師を送り出すよう求めるとともに、母親に対して息子たちを伝道に備えるよう要請した。「幼いわたしたちの心に母

がしみ込ませた信仰により、ファウスト家の5人の息子は全員伝道に行って、神殿で結婚しました」と語った。



プエルトリコの会員たちと歓談する  
ヒンクレー大管長とファウスト副管長。  
写真/大管長会事務局の厚意により掲載

### パナマでの集会

12月18日、約4,500人の会員たちは教会の指導者の姿に触れ、言葉を聞くためにパナマシティーのコンベンションセンター集った。ヒンクレー大管長とファウスト副管長のほかに、七十人で、中央アメリカ地域会長会会長のリン・G・ロビンズ長老とパナマ・パナマシティー伝道部のデュアン・B・ウィリアムズ部長が出席した。

ヒンクレー大管長は説教の中で、<sup>じゅうぶん</sup> 什分の一の大切さに触れて、もし会員たちが什分の一を納めて、信仰を表すならば、「ここに神殿が建てられる日が来るでしょう」と語った。

ファウスト副管長は再び生まれること、バプテスマの聖約を交わすことについて述べた。そして、救い主に対する証によって話を締めくくった。□



パナマシティーでの説教を終えて手を振る  
ヒンクレー大管長に喜びを表す約4,500人の  
会員たち。大管長は彼らに「ここに神殿が  
建てられる日が来るでしょう」と語った。

写真/大管長会事務局の厚意により掲載

## 2000年におけるヒンクレー大管長の足跡

2000年は、ヒンクレー大管長にとって記念すべき1年であった。重要な出来事が多かったこの1年の中で、大管長は90歳の誕生日を祝い、新たに建

設された2万1,000席を有するカンファレンスセンターを奉献し、著書の『譲れない何かのために』(Standing for Something)がアメリカ国内でベストセラーと

なり、15か国以上を訪問し、教会の会員数が1,100万人を超えるのを目の当たりにし、教会の100番目の神殿を含めて21の神殿を奉献した。以下は、大管長

## ヒンクレー大管長、最も尊敬する人の一人に選ばれる

2000年12月29日に公表されたギャラップ世論調査で、アメリカ人が選ぶ世界で最も尊敬する人の一人としてゴードン・B・ヒンクレー大管長が挙げられた。

ギャラップ協会(Gallup Organization)は年次調査の中で、アメリカの成人を対

象に、世界中に住む人々の中で、彼らが最も尊敬する人を一人回答するよう求めた。その結果、回答者の1パーセントが、最も尊敬する人としてヒンクレー大管長を挙げた。最も尊敬する人に挙げられたのは、ヒンクレー大管長を含め、16人である。□

が2000年に携わった重要な出来事を中心にまとめたものである。

1. 1月9日 ミネソタ州セントポール、神殿奉献式
2. 1月22-23日 ハワイ州ライエ、地区大会
3. 1月23日 ハワイ州コナ、神殿奉献式
4. 1月26日 キリバス、タラワ、空港でのあいさつ
5. 1月26日 オーストラリア、ケアンズ、会員との集会
6. 1月28日 インドネシア、ジャカルタ、会員との集会
7. 1月30日 インドネシア、バリ、空港でのあいさつ

8. 1月30日 シンガポール、会員との集会
9. 1月31日 グアム、会員との集会
10. 2月26日 メキシコ、シウダードフアレス、神殿奉献式
11. 2月27日 メキシコ、エルモシーヨ、神殿奉献式
12. 3月5日 ニューメキシコ州アルバカーキ、神殿奉献式
13. 3月8日 ワシントンD.C.、記者クラブの集会
14. 4月6日 ニューヨーク州バルマイラ、神殿奉献式
15. 4月9日 カリフォルニア州フレズノ、神殿奉献式
16. 4月29日 コスタリカ、サンノゼ、会員との集会
17. 4月30日 ボリビア、コチャバンバ、神殿奉献式
18. 6月4日 ケベック州モントリオール、神殿奉献式
19. 6月11日 日本福岡、神殿奉献式
20. 6月13日 タイ、バンコク、会員との集会
21. 6月14日 オーストラリア、ダーウィン、空港でのあいさつ

22. 6月15日 オーストラリア、アデレード、神殿奉献式
23. 6月16日 オーストラリア、メルボルン、神殿奉献式
24. 6月17日 ニューカレドニア、ヌーメア、会員との集会
25. 6月17日 アメリカ領サモア、パゴパゴ、会員との集会
26. 6月18日 フィジー、スバ、神殿奉献式
27. 7月16日 ルイジアナ州バトンルージュ、神殿奉献式
28. 8月20日 ベネズエラ、カラカス、神殿奉献式
29. 8月26日 テキサス州ヒューストン、神殿奉献式
30. 9月3日 アラバマ州バーミングハム、神殿奉献式
31. 9月17日 ドミニカ共和国、サントドミンゴ、神殿奉献式
32. 10月1日 マサチューセッツ州ボストン、神殿奉献式
33. 11月5日 イリノイ州ノーブー、神殿定礎式
34. 12月13日 プエルトリコ、サンホアン、会員との集会
35. 12月15日 ブラジル、レシフェ、神殿奉献式
36. 12月17日 ブラジル、ポルトアレグレ、神殿奉献式
37. 12月18日 パナマ、パナマシティ、会員との集会

注)ユタ州およびアイダホ州での行事は含まれていない。

『チャーチニュース』(Church News)2000年12月30日付けの記事より掲載。



地図/トーマス・S・チャイルド

## 2000年に起こった記念すべき出来事

バーバラ・ジーン・ジョーンズ

2000年に100の舞台を達成した出来事といえば、末日聖徒の大半は神殿のことを考える。2000年10月に、儀式を執行する100番目の神殿が奉献されたことは、喜ばしいニュースとして報じられ、世間でも好意的に受け止められた。

多くの会員には知られていないが、2000年には目立たない所でもう一つ100の舞台を達成した歴史に残る出来事がある。

2000年12月29日に、東部アルメニア語、エリトリアとエチオピアの公用語であるアムハラ語、ラトビア語、リトアニア語、南アフリカのコーサ語に翻訳されたモルモン書が出版され、モルモン書は100か国語に翻訳されたことになった。

この出来事はそれほど注目されなかったが、モルモン書がこのような多くの言語で入手できるようになったことは、100の神殿で儀式が執行されるようになったことと同様に、世界中の人々にとって祝

福となることだろう。

### 世界に広がる祝福

「モルモン書というすばらしい書物を母国語で手にしたとき、信仰深い会員たちが流した喜びの涙を、わたしは決して忘れません。」ジョシュ・ホワイト長老は2000年の初め、伝道地であるエストニアにモルモン書の翻訳が届いたときのことを次のように述べる。「これほど大きな価値のある書物をもう二度とおろそ

かにはしません。」

改宗して7年になるエストニア・タリン地方部タルトゥ支部のマリ・ティマコフは、自分の母国語で初めてモルモン書を読んだときの気持ちを次のように話した。「わたしはエストニア語でモルモン書を読める日が来るのを待ち続けていました。自分が手にしているこの本は、どのページも天からの勧告であふれ、しかもそれが母国語で記されているのです。これはほんとうに驚きです。」

母国語のモルモン書を手にする喜びはエストニアもエチオピアも一様である。「今日、わたしは最初のエチオピアの教会員で初めて、アムハラ語でモルモン書を受け取りました。これほどうれしいことはありません」と、アディスアベバ支部の支部長であるゲメチュ・ワリヨ・ゴヤ



エチオピアでアムハラ語の初版を受け取った数時間後、家族にモルモン書を見せるアディスアベバ支部のゲメチュ・ワリヨ・ゴヤ支部長。「すばらしいことですよ」と支部長は言う。写真/レックス・ウォーカー

は2001年1月に語った。「わたしが初版を一緒に翻訳した会員たちに配ると、皆飛び上がって歓声を上げました。家にモルモン書を持ち帰ると家族が急いで集まって来て、互いにアムハラ語で読み合いました。すばらしいことですよ。」

### 会員を強め、伝道活動を支援する

島国のマダガスカル民主共和国に初のステークが最近設立された、マダガスカル・アンタナナリーボステークのステーク会長であるドミニク・アンドリアマントアは、2000年2月にマダガスカル語のモルモン書が発売されてからすでに地元の会員数に変化が生じてきたと言う。

「以前は会員の定着に問題があったのですが、今は人々がモルモン書に根ざした証<sup>あかし</sup>を持てるようになったため、より本質的な改心をするようになりました」とアンドリアマントア会長は言う。アンドリアマントア会長によれば、人々がモルモン書を読み、教義を理解するようになったため、地元の指導者が強められ、より多くの会員が集会に参加するようになった。

ティマコフ姉妹は、エストニアでも同じことが起こっていると言う。「わたしたちは今ではモルモン書を開いてすぐに読んだり、聖句を話の中で参照したりすることができます。日曜学校でモルモン書の教えを声に出して読むのを楽しく聞くこともできます。数年前は『エストニア語しか分からないので結構です』と言っ



「モルモン書を読めるようになったなんて信じられません」とスワヒリ語訳のモルモン書を受け取った後、タンザニアの求道者ヒルダ・チャールズは語った。写真/グレン・B・グッドリッチ

たであろう人たちにモルモン書を渡すこともできます。大切にしたい祝福です。」

そして去年の秋にスワヒリ語の完訳版が出版されたタンザニアでは、チャンゴンベ支部のウィリアム・ジデメ支部長が、次のように言う。「完全に内容を理解しながら家族全員にモルモン書を読んで聞かせることがやっとなできるようになりました。ほんとうに感謝しています。」

モルモン書が非常に多くの言語に翻訳されたため、これまでは求道者にモルモン書を配布できなかった地域で、伝道活動が成功する可能性が高くなる。「モルモン書を読めるようになったなんて信じられません。ほんとうにうれしいです」とチャンゴンベ支部に集う求道者のヒルダ・チャールズは話す。

エチオピアで働いているある宣教師はゴヤ支部長に次のように言った。「わたしたちの責務はこれから一段と多くなります。」□

## オーストラリアの会員たち、東ティモールの人々を援助する

2000年12月、オーストラリアの教会員はともに協力して、東ティモールの人々にクリスマスの救援パッケージを贈った。菜園用道具、食糧、衣類から成る8万5,000キロの貨物がシドニーから東ティモールへ送られた。

この援助は、オーストラリアの教会役員から、東ティモール国家評議会議長で国際平和維持軍による物資の配給を監督するザナナ・ガスマオに贈られた。

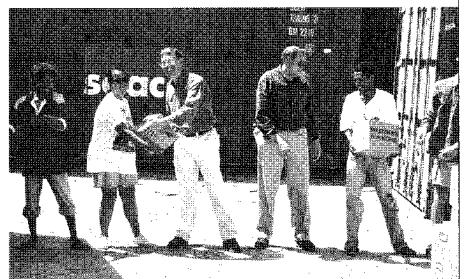
オーストラリアの会員たちはパッケージの一部として、子ども用の新しい衣類や古着約10トンを寄付し、菜園用道具

と食糧はオーストラリア、ニューサウスウェールズのグリフィスにある教会福祉農場からの基金で購入した。

「これは東ティモールの国民にとって大きなクリスマスプレゼントです」とガスマオ氏は語り、栽培用の道具に対し特別な感謝の意を表した。「飢えた人々に食糧を与えるのもよいことですが、最もよいのは彼らに栽培用の道具を与えることにより、それを用いて自分で作物を育て、自給自足できるようになること」と語った。

教会は今年初め、東ティモール難民

へ、衛生用品キット、食糧、衣類を含む人道的援助を別途提供している。□



オーストラリアの会員たちから送られた人道的援助物資を東ティモール住民が下ろす際、手助けをするオーストラリアの教会役員。写真/オーストラリア/太平洋広報部の厚意により掲載

## 末日聖徒移民の足跡をたどるシートレック2001

19世紀に数千人の末日聖徒がヨーロッパからアメリカへ移住したが、彼らの船旅を記念する行事が2か月にわたって開催されることになり、現在準備が進められている。1850年代の帆船を模して造られた10隻の船が、2001年8月7日、デンマークのエスピアから出航する。船は、コペンハーゲン(デンマーク)、イエーテボリ(スウェーデン)、オ

スロ(ノルウェー)、ハンブルク(ドイツ)、ハル、リバプール、ポーツマス(イギリス)、カナリア諸島、バハマに寄航し、10月4日ニューヨーク市に到着する予定である。

数か所の寄港地で、船内見学、花火、末日聖徒移民に関する船上展示、コンピュータによる先祖探求の実演、歴史ワークショップ、コンサートなどの祝賀

行事が計画されている。末日聖徒の作曲家たちが、コンサートで上演されるミュージカル「海の聖徒」(Saints of the Sea)の制作に取り組んでいる。最終祝賀行事は、ニューヨークのマジソンスクウェアガーデンで開催される。

シートレックに関する情報の詳細のホームページアドレスは次のとおりである。  
www.seatrek2001.com □

## 歯学部教授陣を指導する末日聖徒の歯科医師たち

サラ・ジェーン・ウィーバー

それはフレデリック・J・マイヤーズ長老が待ちわびていた瞬間だった。ペルーのリマでマイヤーズ長老が技術支援を行う診療所で歯科治療を受けようとする人々の列は途切れることがないように見えた。ある歯学部講師は助手の学生とともに手術を行った。ある大学院生は将来歯科医師となるグループに診断用カメラの使用法を教えた。マイヤーズ長老自身は、二つの症例を診断し、長老の専門知識と診療所にある最新機器を必要とする症例の場合は学生がそれを診断できるよう助けた。ペルー市内でも先端を行く同医院の診療台6台はいっぱいだった。

その光景は、見ただけでも疲れるほどのものであった。「その場に参加できてほんとうによかったです」とマイヤーズ長老は言う。歯科医師であるマイヤーズ長老とアルマ夫人は、サンマルコス大学歯学部で、人道的活動を行う責任を割り当てられた専任宣教師である。

長年にわたり、末日聖徒の歯科医師らは、世界中で奉仕活動を行っており、わずかな人々を助けられることに希望を感じながらも、多くの治療が不可能であることに落胆していた。税関で医療機器を通すことは困難で、費用がかかることから、設備への依存が大きい歯科治療には大きな障害となっていた。しかも、一人の医師が数日どころか生涯をかけても終えることができないほど多くの仕事があっ

た。しかし、教会の人道的援助機関の努力により、マイヤーズ長老をはじめとする末日聖徒歯科医師会(Academy of LDS Dentists)の歯科医師たちは、可能な治療の幅を広げつつある。

末日聖徒歯科医師会は専門知識の共有と世界への奉仕、また奨学金による末日聖徒の歯科医師養成を目的として1977年に結成され、現在500人以上の会員を擁する。同学会の基金は年次大会、会費、奉仕活動への寄付金から成っている。

「末日聖徒歯科医師会の会員は常に個人への奉仕を行っています」と同学会の幹部であるジェラルド・S・サマーヘイズは語る。そして、こう付け加えている。「しかし現在、わたしたちは教授への指導も行っているのです。」

同学会は現在、マイヤーズ長老と姉妹、さらにインドネシア大学歯学部で奉仕中の夫婦宣教師2組のように教会で人道的活動を行う宣教師たちに専門的な援助を行っている。このような夫婦宣教師は歯学部の教授陣を指導し、その国内にいるほかの専門家たちと親しい関係を築き、治療を必要とする人々に質の高い医療を提供するうえで支援を行っている。

例えば、2000年10月には末日聖徒の歯科医師および歯科衛生士の一団が奉仕活動のためペルーに渡った。同団体は寄贈された備品をスーツケース12個分持参した。このような活動はサンマルコス大学では初めてだったが、大成功

を収めた。サマーヘイズ兄弟によると、同学会はこのような学内での奉仕活動をこれからも続けたいとしている。

「サンマルコス歯学部での活動はまたとない経験となりました」と末日聖徒でボランティアとして旅行に参加したロビン・ファースは言う。「わたしたちは4つの州とカナダから来た歯科技術の専門家として、神の手に使われる者となり、ペルーの兄弟姉妹に仕えるという目的の下に結束しました。この経験から、わたしの人生は永遠に変わるようになりました。」

教会の人道的援助機関はペルーの診療所で必要とされている教材、器具、備品などの専門的な援助を末日聖徒歯科医師会による無償の働きに頼ってきた。器具の大半は製造業社からの寄付である。「リマの活動ではまったく前例のないことが行われているのです」とサマーヘイズ兄弟は言う。

同様のことがインドネシアのジャカルタでも起こっている。ここでは、テリー・モリス長老とダニー・モリス姉妹、リチャード・スミス長老とノーマ・スミス姉妹がインドネシア大学歯学部の教育課程を改善するために働いている。難題にも直面したが、効果も現れている。

ペルーおよびインドネシア両国から教会の人道的援助機関へ深甚なる感謝が寄せられた。人道的援助機関は末日聖徒歯科医師会会員の協力に感謝している。□  
「チャーチニュース」(Church News)2000年12月23日付けの記事を基に掲載。

## アロン神権者の心得 こんにち今日の試練を乗り越える

管理監督会および中央若い男性会長会

2000年11月12日に行われたファイヤサイドでゴードン・B・ヒンクレー大管長は、教会の青少年は大きな困難に直面していると述べました。しかし、これらの問題はこれまでの世代が直面してきた問題よりも克服しやすいものであり、それは今日の試練には個人の行動に関する決断の要素が多分に含まれているからであると説明しました。青少年は一度ふさわしい行動をしようと決断すれば、問題を克服することができるのです(「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月、30-41参照)。正しい選択をするために神から授かった選択の自由の賜物を賢明に行使することで、青少年は今日の世の試練にうまく対処することができるのです。

ヒンクレー大管長は青少年が試練を克服できるよう、6つのBを提案しました。

■ **感謝する人になりましょう。** 青少年は心に感謝の気持ちを抱いて生活すべきです。両親、友達、そのほか助けてくれる人々に感謝する必要があります。そして祈りの中で神に感謝を示してください。

■ **知性を備えた人になりましょう。**

青少年の選んだ分野がどのようなものであろうとも、青少年はできるかぎり高度の教育を受けられるようになるため、犠牲を払うべきです。

■ **清い人になりましょう。** 青少年はポルノグラフィ、神の御名をみだりに唱えること、不法な薬物、破滅的な娯楽、入れ墨、ボディピアス(女性が耳に一組ずつのピアスをするのは例外として認められる)、早い時期からのデート、そしてあらゆる種類の性的な罪を避けなくてはなりません。また青少年は良い影響を与えてくれる友人を選ぶべきです。

■ **誠実な人になりましょう。** 青少年は教会に忠誠を尽くし、交わした聖約に忠実であるべきです。

■ **謙遜な人になりましょう。** 謙遜な青少年は主に導かれ、祈りの答えを受けられるでしょう。

■ **よく祈る人になりましょう。** 青少年は神からの助けが必要です。後ろめたい気持ちを感じることなく主に語りかけられるよう生活すべきです。



監督、若い男性の会長会、そしてそのほかのアロン神権指導者は、若い男性と定員会、日曜日の夜の話し合い、そのほか同様の集会の場でヒンクレー大管長の勧告について再検討し、話し合うよう勧められています。そうすることで、彼らは自分たちの生活の中でヒンクレー大管長の勧告を実践できるようになるでしょう。この指針に従うことによってもたらされる喜びを青少年が実感できるよう、働きかけてください。そしてヒンクレー大管長の勧告に従って生活しようとする彼らの努力を認めてあげてください。□

## メルキゼデク神権者の心得

大管長会および十二使徒定員会

2000年10月7日に行われた一般大会の神権部会における父親へのメッセージの中で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、父親の幸福という面から考えると、子どもたちの行く末がどうなるかということほど、深い影響を及ぼすものは、何もありませんと語りました(「あなたの子らの平安は深い」『リアホナ』2001年1月号、61-68参照)。ヒンクレー大管長は、教会の青少年も、自分たちを取り囲む諸悪に対抗するために両親の助けを必要としていると強調し、両親が主の方法によって子どもたちを教えるよう提案しました。実に、両親には光と真理の中で子どもたちを育てるようという神聖な戒めが与えられているのです(教義と聖約93:40参照)。定員会およびグループのリーダーは、定員会やグルー

## 子どもを教えるように両親を励ます

プの集会で、ヒンクレー大管長により提示された以下の勧めを再検討し、自分の子どもたちとともにこれらの勧めに関して話し合いの場を持つよう両親を励ますことにより、両親を助けることができます。

■ **良い友情を築くよう子どもたちに教える。** 教会の青少年は、良い影響を与える友人を選ぶべきである。

■ **教育の大切さを教える。** 教会の青少年は、教育を受けるために払った努力に見合った報いを十分に受けることになる。彼らが能力、技術を発達させることにより、教会も祝福を受けることになる。

■ **子どもたちに自尊心を教える。** 大管長会および十二使徒定員会は、入れ墨を入れることや女性が一組のイヤリングを着けるために、耳に最小限の穴を開けること以外の目的で体に穴を開けるようなことがないように勧めている。

■ **麻薬を遠ざけるよう教える。** 違法な薬物を用いる人は、自制心を失い、そのような習慣を維持するためにはどんなことでもするようになる。

■ **正直という美德を教える。** 正直な人は清い良心と汚れのない評判を得ることができる。

■ **高潔であるように教える。** 性的な衝動は不屈の自制心によって抑制しなければならない。

■ **子どもたちに、主の宮で結婚する日を待ち望むよう教える。** いかなる種類の悪にも染まらずに、結婚の聖壇にひざまずく。夫は離婚を招くような状況に身を置くことのないようにする。また、離婚に至るような態度を避けるべきである。

■ **子どもたちに祈ることを教える。** 個人的な助けや導きを求めて神に近づくことができるのは奇跡である。□



# 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2001年5月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』5月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」2-3ページ「じゅうじゅんはしゆくふくをもたらず」を参照する。

1. 3種類の地図を描く。最初の地図には、教会の集会所を含む幾つかの建物を描き、どこにもつながらない、循環している道路を描く。2番目の地図は最初の地図と同じ地区を描く。しかし道路を正しく描く。3番目の地図は、わたしたちと天父の間にまっすぐな道を描く。最初の地図を子どもたちに見せ、この地図上の道路をたどって、教会に行くことができるかどうか子どもたちに尋ねる。次に2番目の地図を見せ、通りや道路の名前を子どもたちに見つけさせる。この地図を使って教会へ行く道が分かるかどうか、子どもたちに尋ねる。3番目の地図を見せる。わたしたちが天父のもとへ戻ることができるために預言者がわたしたちに行くよう求めている事柄の幾つかを、道沿いに描いたり、書いたりする。その作業を子どもたちに手伝わせる。(例——バプテスマを受ける、聖霊を受ける、預言者の言葉に耳を傾ける、聖文を読む、祈る、親切にする、戒めに従う、神殿で結婚する、など。)預言者に従い、預言者がわたしたちに行くよう求めている事柄を行うことで、安全に天父のもとへ導かれることを説明する。

2. 文節ごとに区切られた言葉(「預言者に」「従い」「平安を」「見いだす」)を部屋の中に隠してあることを子どもたちに話す。もし指示に従うならば、すぐに言葉を見つかることができる。次のような指示を与えて、一人の子どもが最初の言葉を見つけれられるようにする。「部屋の右側に行く。」「1列目に移動する。」「左から3つ目のいすに移動する。」「いすの下を見る。」このようにして、全部の言葉が見つかるまで続ける。言葉を床か黒板に並べて、「預言者に従い、平安を見いだす」という文章にする。どのようにし

て言葉を全部見つけることができたか、子どもたちに尋ねる。わたしたちは従順になり、預言者の指示に従うならば、平安を見いだすであろうことを子どもたちに話す。預言者に従順になるためにできることを子どもたちに考えさせる。(例——<sup>じゅうぶん</sup>什分の一を払う、両親に従う、祈る、断食をする、聖文を研究する、など。)天父はわたしたちが戒めに従順であることを望んでおられると説明する。従順になり、預言者に従うことで、平安と幸福の祝福が生活にもたらされる。

3. 聖典一式と自転車のヘルメット、またはそのほかの安全装置を見せる。この二つがどのように似ているか子どもたちに尋ねる。二つとも正しく使えば、わたしたちを守ってくれるものであることを説明する。聖文は神の戒めを教えてくれるので、わたしたちを守ってくれると説明する。「いましめを守る人を」(『子供の

歌集』68;『賛美歌』193番;『聖徒の道』こどものページ、1994年9月号、10-11)の最初の2フレーズ(「戒めを」から「導かん」まで)を歌う。子どもたちにも一緒に最初の2フレーズを歌うように言う。それから「戒めを守ると、何が得られるか」と尋ねる(守り)。3番目のフレーズ(「天の恵み 豊かにあり」の部分)を歌い、それから子どもたちも一緒に歌わせる。そして子どもたちに3フレーズ目まで通して歌わせる。「戒めを守ると何が起きるか」と尋ねる(従順によって、恵みを受ける)。戒めを守ることは大切であるため、「預言者に従って <sup>みことば</sup> 御言葉を守らん」の部分<sup>あかし</sup>を歌い、子どもたちにも後について歌わせる。その後、最初からその部分まで歌わせる。「預言者はわたしたちにどうするように言っているか」と尋ねる(戒めを守る)。神の戒めを守ることの大切さについて自分の証を述べる。□

新刊  
紹介

## 『レガシー——大いなる遺産』ビデオ発売中

**初**期の末日聖徒たちと彼らの西部への移住の物語を描いた、教会制作の映画『レガシー——大いなる遺産』が、英語、スペイン語、ドイツ語、フランス語、日本語、サモア語、そしてトンガ語のVHSビデオ版で発売された。近日中に発売予定のこのビデオは、教会配送センターを通じて入手できる。

ジョセフ・スミス記念館における7年の上映期間で5万人が鑑賞した『レガシー——大いなる遺産』は去年3月に上映を

終了し、代わりに新しい教会制作映画『証——一つの群れ、一人の羊飼』が上映されている。

『レガシー——大いなる遺産』は、現在でも日曜以外の毎日午後1時から7時まで、テンプルスクウェアの北訪問者センターの大画面で上映されている。チケットは不要。□

### ブックセンターだより

#### 『レガシー——大いなる遺産』ビデオ (日本語吹替版)

カタログ番号: 53333 300 VHS 52分 定価 400円

●教会初のワイドスクリーン上映を前提に制作された70ミリ映画『Legacy』の日本語吹替版です(ビデオ画面はトリミング版)。ジョセフ・スミス記念館の劇場における公開当時、レーザーの日本語チャンネルで流されていた音声をほぼそのまま収録しています。

1830年、ニューヨーク州で教会に加わった主人公エライザ・ウィリアムズの波乱に満ちた半生記。迫害、試練、またロマンスと結婚、モルモン大隊出征による夫との別離と再会など様々な人間模様を経ながらソルトレークへと向かうエライザの旅が、史実を忠実に再現した迫力の映像でつづられます。(『聖徒の道』1997年2月号、32参照)。



特集

# 老いとともに福音に生きる

—介護保険法の施行など、日本でも否応ない現実として迫る高齢化社会。わたしたちは末日聖徒として、どのように幸福な老後を迎え得るのでしょうか。高齢者として、またそれを支える家族としてイエス・キリストの福音が、そこにどう生かされるかを考えます。



## 生涯の終わりまでともに仕える家

関西発・教会員の高齢者20家族が集まり、「銀の家」を創設

建築中の「銀の家」。右奥は、本館が定員メンバーが宿泊しているプレハブ。左から、坂本泰造兄弟、横尾清一兄弟、樋谷敏男兄弟、坂本準太兄弟。

**紀**伊半島の南紀白浜から山手へ車で半時間余り、すばらしい溪谷美を見せる日置川流域の静かな山あいに、市鹿野という集落があります。その町外れの日当たりのいい斜面に、建築中の建物が姿を見せていました。背後の山に溶け込むようなさりげない緑の屋根を持つたはずまいは、周囲のおおらかな風景によくなじんでいます。

これは、おもに関西在住の教会員20家族ほどが集まって建てる「銀の家」の最初の建物です。教会で長くともに歩み、気心も知れた兄弟姉妹たちが定年を迎えるに当たり、第二の人生を、文字どおりの兄弟姉妹としてともにいたわり合い助け合って暮らす家を作ろう——そうして発足したのが「銀の家」です。

発起人の坂本泰造兄弟はこう話します。「昔にさかのばれば、まだ独身時代のときに、岡町の教会の若い連中が集まってアパートを作ろうかという話はあったんです。それで銀行に資金の相談に行ったら一蹴されましたけど。(笑)そういう気運というか、教会員同士と一緒に集まって暮らすと楽しいじゃないかという雰囲気は、今から35、6年前には

どの支部にでも普遍的にあったような気がします。

それが最近、たまたま当時からの会員の中で養老院に行く人があったりして、このままだとみんなパラバラになるなと感じ、定年後の生活についてみんなで話し合おうということになりました。田舎に家を買って、週末になったらそこにちょっと寄っておしゃべりして過ごさないか、ええなあ、と最初はそれぐらいの話でした。」

しかし話はそのうちに、いっそ老後をみんなで暮らそう、体の不自由な人が出ればみんなで介護しよう、と発展していきました。それに対応するものを作るべく6年前にスタートしたのが「銀の家」です。まずみんなで積み立てを始め、3年前にはお金を出し合って1,000坪の土地を確保しました。やがて「銀の家」メンバーの宮川靖弘兄弟が立てたプランを元に設計を依頼し、建築法規上の諸条件をクリアしていよいよ建て始めたのが今年の10月半ばのことでした。

経費節減のためと、元建築宣教師で教会堂の現場監督の経験もある樋谷敏男兄弟と出会ったことから、自分たちで

建築まで手がけることになりました。樋谷兄弟は30数年前、まだ高校生だった一時期、坂本兄弟と同じ支部に集っていました。現在茨城県つくば市で建築業を営む樋谷兄弟は和歌山の現場へ単身赴任し、現場のプレハブに寝泊まりして坂本泰造兄弟、息子の坂本準太兄弟、横尾清一兄弟らと4人で作業を始めました。「単身赴任までする物好きな人はなかなかいませんから。ほくの場合は教会の建築宣教師を使う現場監督の経験から、素人と一緒に仕事するのは抵抗がない。普通の大工は嫌がるんですね。だからほくなんかそういう意味ではびったりの存在です。」また前述の宮川兄弟は水道工事も施工し、やはり「銀の家」メンバーの平川友正兄弟が電気工事を行いました。関西の教会の開拓者である彼らの自立心あふれるその姿は、文字どおり教会の開拓時代を彷彿とさせます。

現在建築中の建物は5家族分の居室と、皆で集まる居間・食堂から成ります。メンバーの中にはまだ定年に達していない人が多くいるので、入居予定を見ながら徐々に増築していき、最終的には20室とゲストハウスで完成します。

## 「家族」として暮らす

ここに暮らす人々は寄り添って文字どおり兄弟姉妹、家族として生活します。各夫婦または個人の部屋はあるものの、昼間の時間は家族同様にどの部屋へでも出入りすることができ、食事の支度も皆で行い、食堂でにぎやかにおしゃべりを楽しみながら食べる——暮らしの姿は様々に思い描くことができるものの、細かいルールはなく、例えば食事の当番制などといった決まりはあえて作りません。実際に暮らしてみても、不都合なところは試行錯誤しながらだんだん変えていけばいい——そこには肩ひじ張らず良い意味で「ええかげん」な関西人気質がうかがえます。メンバーお互いの信頼と愛がベースになっており、それを一言に集約すれば「家族」であるということなのです。

「お互いを兄弟姉妹として認め合って、その兄弟のために自分の命を捨てる、それほど素晴らしいことはない」と神様はおっしゃっているわけでしょう。命を捨てるというのは別に腹を切るわけではなく、自分の持てるものをすべて出しても後悔しない、ともに暮らす人を家族として暮らすという暮らし方なんです。家族だったら、自分の子どもが病気になる一生懸命看病します。おじいちゃんのためでもおばあちゃんのためでも。我々自分たちで新しい家族を作るような気持ち



ですから、家族の一員が困ればみんなですぐ助けるのは当然です。それが、もしその中に介護が必要な人が出れば介護していくということなんです。」

## 社会とのかかわり

この5月から入居する姉妹はヘルパー2級の資格をそのために取りました。

「それは我々のためだけではなく、ここでヘルパーとして開業するかもしれません。わたしたちは別に年金だけで暮らすわけではなく、できる範囲でビジネスもするんですよ。やっぱり年取って何も生活というのは難しいです。横尾兄弟は菜園をよくやっていたので、ぜひ『銀の家』の中で菜園を作って、自家製の野菜を食べたいねえ、とか。それは

裏の畑では皆で食べる青物を作っている。



けっこうな楽しみです。菜園はずっと続くんじゃないですか。」そのほかにもガーデニングで美しい花を育てたり、鶏を飼ったりしたいという兄弟や、建築の経験と道具を生かした木工や大工仕事など、この土地でできることは何でもこなしていくといいます。

高齢化の一つの問題は社会との関係が希薄になっていくということです。「年取ってから友達を作るといってもそんな機会はほとんどない、昔の友人と交流持っても減っていくばかりですよ」と横尾兄弟は言います。社会との接点は必要、と坂本兄弟も語ります。

「ぼくたちもある意味で切り捨てられると嫌なんです。だからいつも交流があって、今はインターネットの時代ですからホームページを開いて、いつでも人々からアクセスもらえるようなそういう作業は必ず行っていきます。その延長で例えばヘルパーとして働く。結局それはビジネスという意味で大切ではなくて、それらのものを通して人間が関係するということ、それがいいんです。それをもって楽しみにしたいというわけですから。

ぼくらがいつも言ってるいちばんの楽しみは、『銀の家』に教会員が泊まりに来てくれて、おしゃべりしてね、ぼくらの生活とそれにかかわる人々を楽しんでくれたら、それはうれしいですね。」

「そのためのゲストハウスなんです」と植谷兄弟も言い添えます。

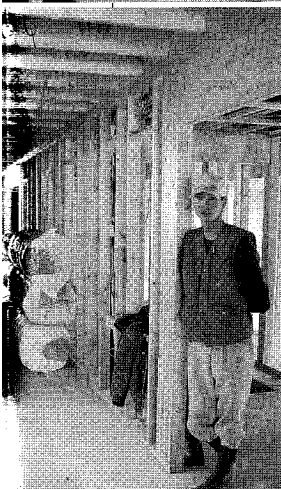
## 奉仕の楽しみ

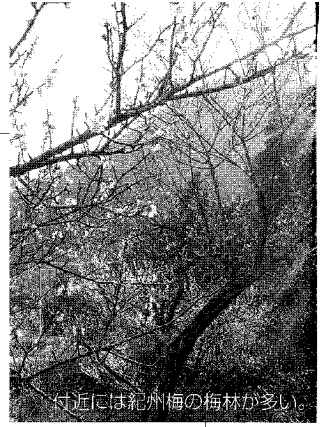
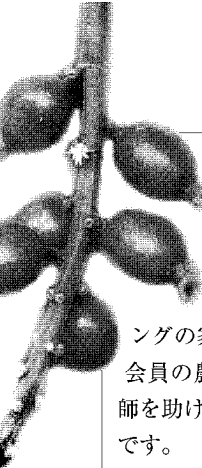
「でも、すべては『銀の家』の人たちをないがしろにしないことが前提です。家族が困ってるのに知らないふりして外へ働きに出るわけにはいかないですから。」中がうまくいって余力があれば、外で働いたり、余剰の年金をプールして専任宣教師や神殿宣教師を支援したりもしてみたいと坂本兄弟は語ります。また

左——明るい陽の差し込む2部屋とトイレ、クローゼットから成る居室は夫婦二人で暮らすに十分な広さがあり、ここにトイレは車いすで入れる広さを確保してある。下——1階部分は段差のないバリアフリー仕様、階段も1段当たり15センチの段差に奥行きが28センチとゆったりした作りになっている。

左下——廊下は車いす2台が楽にすれ違える広さ。外断熱工法(床下から屋根まで建物全体を外側から板状の断熱材ですっぽり覆う工法)と2重ガラス窓による室内は、風呂、トイレ、廊下から屋根裏まで全室に温度差がなく、温水パイプをコンクリートの蓄熱層に埋めた床暖房によって冬も暖かく過ごせる。暖かい部屋から寒い部屋へ急に移動したとき起こるヒートショックをなくすことで脳卒中の防止など高齢者の体に優しい作りとなっている。3月現在、断熱工事が終わったばかりで何の暖房も

入居時にまとまった額の建築資金を負担すれば、後は月々の食費と維持費だけで終生住むことができるシステム。





付近には紀州梅の梅林が多い。

たとえ20家族集まっても、そこで集会を持ったりせずに最寄りの田辺支部へ通い続けるといいます。例えば時間のある自分たちがホームティーチングの家族を多く担当したり、支部の会員の農園の収穫を手伝ったり、宣教師を助けたりといった機会ができるからです。

「人を助けるのはけっこう楽しい仕事です、だからみんな嫌じゃないんですよ。まず一義的には自分の幸福のために『銀の家』をやっているんですけど、幸福とは、安心して暮らせることだけでなく、自分という人間を他人のために役立てられるという、そこがやっぱりいちばんのポイントだと思います。だから一人や二人介護を要する人がいていいんですよ、それをみんなでお世話するという楽しみがあるじゃないですか。人間って奉仕できる部分があるとうれしいんですよ。」

### キリストの言葉で生きる

周囲には、これまで例のないことに挑戦する「銀の家」の先行きを心配する声もあります。植谷兄弟はこう話します。「泰造さんをよく知っている人の中にも、そういうのはうまくいかないって意見の人もあるけれど、でもやってみないうちからそれは言えないと思うんですね。逆に、やってみるだけの価値は、十分すぎるほどあると思うから。」

他人を家族として考える、という理念の中で、お互いの礼儀すなわち人間関係の距離のバランスがスムーズに確立されれば大丈夫、と坂本兄弟は考えています。「その辺でギクシャクするようになって、御飯も別々に食べようとか、世界が分かれていったら、まあ難儀やろなあと思います。そこは実際にやってみないと分からないですね。」

それはシステムというより参加する個人の資質や相性の問題かもしれません。「そう、資質です。しかし資質に頼ってしまうとこれは難しいので、結局そのように

変われること——ぼくたちは悔い改めのできる人間だから、それを信頼するんですよ。だからトラブルがあったらそこで話す。聖典を開いて、こう書いてある、やっぱりそれに従って生きようやないか、ほんまにそうや、とそう思えば変われると思います。それはもう、ぼくたちが『銀の家』で暮らすための基本になるべきなんだ。問題に行き当たったら、キリストの言葉に探し求めて、必要な知識はそこから得る。ぼくたちはこういう言葉で生きる人間なんだということをお互いの基盤として確認して、そうなれる人として、ぼくたちは一緒に住むわけですから。それがやっぱり肝心だと思います。そのことを抜きにして自分たちの持っている趣味とか好き嫌いでもやろうと思ったら、まあ難しい。そこが世の中の福祉と根本的に違うところですよ。

そのためにやるんです。主の示された



北側の窓から見える自然豊かな市鹿野の里山。教会の青少年がキャンプのように泊まりに来てくれたらいいなあ、と坂本兄弟は話す。

ように隣人のために生きることを喜びとし、それで命と救いの道に入ろう、と決心している。そのための努力は惜しまないことですね。年金が余ったら人のために使おうじゃないかというのも同じ線上の発想です。だから、失敗はないはず。」

今「銀の家」の最年少メンバーは坂本兄弟の息子さんの隼太兄弟です。定年に達していない彼らは毎月の積み立て金で『銀の家』を支え続けています。「ぼくの面倒を見た人を(定年になった)隼太が面倒見る、とそういうふう順番で次から次に入ってきて、そこにいるお年寄りを喜んでお世話してあげる。そういう人が来ないとだめなんです。これがきれいに動くようになれば、100年200年とこの制度がずっと維持されて、ここで暮らす人たちは天

国への道をたどることになるわけです。

これがうまくいくんだったら、ほんとうに全国的に『銀の家を作る会』を作ってみたいと思いますよ。ぼくからエネルギーとか考え方を少し分けて、そして地区ごとに世話役を立てて。……しかし自分の財産を出してやっていくというのは、相当な勇気が要るみたいですね。でも、日本中あちこちにそうした家が10も15もあって、そこを体験で泊まり歩いて、わたしはここがええわ、って選べる時代って、いいと思いませんか？ 家同士である程度交流したりしてね、楽しいでしょう。同じ世代で話も合うし気楽なもんです。これは完全な老人の自立です。政府の福祉の人が聞きに来ますよ、どうしてそんなにうまくいくんですか、って。(笑)」

生涯の残りを、お互いを支え、自分の時間と才能とお金を出して互いに愛し合い助け合って皆で暮らしてみる——それはアメリカ大陸をイエス・キリストが訪れた後200年間にわたって続いた古代アメリカの幸福な社会を思わせます。「……彼らの中にはまったく争いがなく、論争もなく、皆、互いに公正に振る舞った。

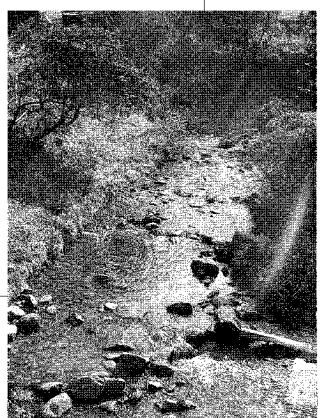
また、彼らはすべてのものを共有したので、物持ちも貧しい者も、束縛された者も自由な者もなく、皆自由であり、天の賜物にあずかる者となった。」(4ニーファイ1:2-3)

「この『銀の家』に来て、あれに倣うように暮らす、ぼくはやっぱりそれがいいばんだと思いますね。人間はほんとうにそういうふうになれるのかなれないのか、なったときはほんとうに幸せなのか、それを試してみる機会が、実際問題としてあるような気がするんですよ。」

走りながら考えますが、と語る坂本兄弟はじめ「銀の家」の人々は、むしろ現役世代よりも若々しい精神に満ちあふれているよう感じられました。□



家の北側の地形の中



# 母は家族にとって天使でした

## 自分が変わるといふ奇跡——20年間介護した母をみつめて

札幌西ステーク藻岩ワード

織田なほみ姉妹

「母が果物や野菜をわたしに盗まれなようにと押し入れに隠し、しばらくしてから、腐った果物や野菜を見つけたときにはショックを受けました。」

織田なほみ姉妹は、お母さんが財布を度々しまし忘れてたり、つくだ煮の中に指輪を入れたり、補聴器を植木鉢の中に入れてたりするのを見て、最初はノイローゼなのではないかと思っていました。まさかそれが痴呆症の始まりとは夢にも思いませんでした。「最初は脳血管障害と診断されていました。数年後にアルツハイマー病との診断を受けたときには、2度目の大きなショックでした。」

母親の介護を通じて、神様の教えのすばらしさを再認識することができたと語る織田姉妹が、初めて真の福音を知ったのは1982年のことでした。

「宣教師が仙台の我が家を訪れた当時、死後の世界について関心があったわたしは救いの計画の話に希望を感じることができました。母は小学生のときに父親を亡くし、その悲しみが強かったため背が伸びなくなったと聞いていたので、母をいつの日か祖父に会わせてあげたいと思いました。」宣教師と出会って学び始めた織田姉妹でしたが、その信仰生活に深い影響を与えたのはお母さんでした。「信仰のきっかけと福音のすばらしさを知ることができたのは母のおかげなんです。あるとき、宣教師に『母の病気を治してくれるという奇跡を起こしてくれたら、すぐにでもバプテスマを受けます』と言ったことがあります。それに対して宣教師はアルマ書第32章17節から18節を引用しながら信仰についての教えを説いてくれました。そうしてそれぞれの信仰に応じて奇跡が起こり得るといふことを理解することができました。母の健康状態を考えるにつれ、いつか奇跡が起こってほしいという希望とともに福音を学び始めました。」その後、織田姉妹は家族とともに札幌に移り、2年間の求道者生活の後にバプテスマを受けることになりました。2年の間に福音を教え続けてくれた16人の宣教師

一人一人に手紙を書き、心からの感謝を伝えました。

バプテスマを受け、神様の教えを知った織田姉妹でしたが、母親の介護にかかわる多くの悩みが一気に解決されたわけではありません。「母は、昼夜の区別がつかない、自分の子どもの名前も分からない、シャツの着方も分からない、足し算ができない、年齢も分からない、単語の意味も分からない状態でした。時には『眼鏡ってどうやってかじるんだっけ』などと質問することもありました。そして、だんだんと日常会話もできなくなり、自分の言いたいこともわたしたちの言うことも理解できなくなってしまいました。」織田姉妹はそれらの状況をノートやカレンダーに克明に記しながら、「いつか奇跡が起きる」と信じていました。

「母は自分の気持ちをうまく伝えられなかったことも原因で、大変怒りっぽくなっていました。入浴時の衣服の着脱や洗髪はとて嫌がりました。しかし、両親が努力して建てた家なのに自分の家のお風呂に入れないのはかわいそうと思い、何とか入れてあげようと思いました。嫌がる母親に賛美歌を歌ったところ、機嫌がよくなることがありました。わたしも賛美歌によって慰められることがありますので、母にも賛美歌を歌ってあげることにしたんです。母は中学から大学まで東京の青山学院で学び、教師もしていました。キリスト教系の学校で学んだため、わたしも母の影響を受けてキリスト教に興味を持つようになったんだと思います。その母が賛美歌を好むのはそんな背景があったからかもしれません。」それ以降、織田姉妹はお母さんの機嫌が悪くなりそうになると賛美歌を歌うようになりました。賛美歌にはお母さんの心を穏やかにさせる効果がありました。また驚いたことに、聞かせた新しい賛美歌をほんの一部でしたが一緒に歌うことさえあったのです。

「母は足が丈夫なため、目を離すことができませんでした。食事の支度の時には背中にも目があったらと思うほど、気

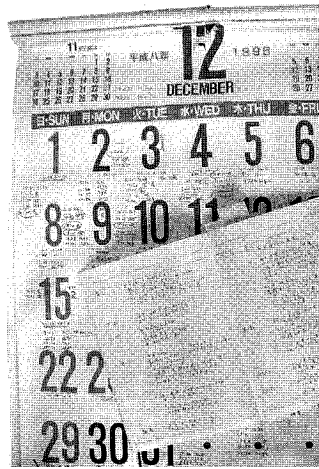


75歳のころ、日曜日に特別養護老人ホームから自宅へ帰ってうれしそうに笑顔を見せる織田姉妹のお母さんの酒井方子さん。

の休まるときがありませんでした。父もゆっくりと休むことができず、家族全員が限界に達していました。介護疲れの負担を軽減するために、老人ホームへ週末だけのショートステイを頼むことにしました。しかし、いつも同じ施設が空いているとは限らず、数か所を転々としたり、それぞれの施設の対応が異なることがお母さんの精神的負担になっていると感じたことから、同じベッドを確保することを希望して特別養護老人ホームに正式に入所する手続きを行いました。最初は週末だけの予定でしたが、ホームに慣れるための日数も必要と判断して、週4日が特別養護老人ホーム、3日を自宅で過ごすという生活が始まりました。

「亡くなる1年7か月前にてんかん性発作を初めて経験し、検査のため6日間入院しました。それ以来急に足腰が弱くなり、特別養護老人ホームでは寝たきり、我が家では車いすで過ごすようになりました。人間は自分勝手なもので、母が足が丈夫で徘徊していたころには目が離せなくて大変だったはずなのに、体が不自由になると元気なころの体に戻ってほしいと思っていました。」

このころから織田姉妹の家族にも、お母さんにも変化の兆しが見え始め



「胃の上で死にたい」という言葉が古来から日本にはあります。昨年の4月から介護保険法が施行され、その中で訪問看護婦という仕事も社会の中でクローズアップされてきました。東京都町田市に住む**刑部登志子**姉妹は訪問看護婦になって7年目です。

「以前は病院で働いていましたが、ある時期家庭に入って『家っていいな』と実感しました。そうした中で、死ぬときだけ病院に連れて来るといのは変じゃないかと思っただけです。

何人も自宅のみとりました。死ぬときってただでさえ苦しいじゃないですか。でも癌の患者さんなど、リラックスするので病院にいるより痛みが少ないんです。痛み止めの薬も少なく済みます。それで、家族の持つ力はすごいな、と思いました。家で亡くなるのはとても自然で幸せなケースが多かったです。ただそれには周りの家族の愛情が必要なんです。

訪問看護を始めたころはまだ病院でみとるのが一般的で、本人が望んでも家族が不安になって病院に入れてしまったり……だからまず本人そして家族も、死に立ち向かえるようケアしなければなりません。親しくなった患者さんとは時々話すことはあるんです。ふすまの向こうへ行くだけなのよ、って。日本人にはふすまという言葉が分かりやすいんです。

当初はドクターの意識もまちまちで、この家族は立派に自宅のみとれると思って、土壇場のドクターの判断で救急車を呼んで気

管切開など延命処置をばたばたとすることもありました。すごく苦しい最期です。ほんとうに治る見込みがなかったら、最期はお子さんたちに手を握ってもらって看護婦は下がってそれでいいんです。死ぬ前に一人一人家族を呼んで話すような、大人の死に方ができればいいんですけど。人生の最後の時間はその人のものだから、血圧なんか測らずに、その人がいちばん話したい人と話させればいい。家庭ではそれができるんです。

ある患者さんが亡くなって、そのお宅へ行ったら、布団の上にはばーっと紅葉がまいてあってとてもきれいだったんですよ。お母様は自然が好きだったから、と庭の野菊が切っただけ……病院では絶対そんなことできない。すごくいいなあと思いました。

在宅看護では家族の存在が80パーセントです。家族関係がうまくいかない人は家でみとりはできません。家族が耐えられなくて、介護疲れから虐待が起きることもあります。自分のいちばん悪いところを見せるのは家族なんです。外の人には愛想良くしても、疲れているとき子どもにニコニコするのはすごく大変です。イエス様が、いちばん弱い人にしたことはわたしにしたことだとおっしゃるのはすごくよく分かる。権力やお金のある人にヘイコラするのは簡単です。でも弱くて何も見返りが無い人に、おむつを換えてあげたりお水を飲ませてあげたりと親切にするのは難しいものです。また学歴も財産も権力もあつ

ても、体が動かなくなって水も自由に飲ませてもらえない人もいます。家族の問題はお金で解決はできません。そうした現場を見ると、福音の価値がよく分かります。

お年寄りを見てきて実感するのは、自分の意志があつて体の動くときしか善いことはできないんだということです。引退してから余裕ができてから善いことをするのはなく、今、できることをすればいいと思います。

だれもが迎える死に当たっては、信仰と希望と愛、それだけが残ります。財産や権力のあるなしにかかわらず、最後に残るものは家族への愛情、次の世への信仰と希望、それだけです。ですからいちばん大切なものは家族ですね。愛情のある家族のみとれたときはすごく気持ちがいいですよ。看護婦のわたしまで幸せだなと思えます。」□

▶刑部姉妹の訪問看護スタイル。バッグには聴診器や血圧計など医療器具が入っている。首にはいつも携帯電話がかかっている。呼ばれば20分以内



ました。「会話ができなくても表情でわたしたちはたくさんのお話を理解し合えることができました。特別養護老人ホームにいるときには、うつろな表情でしたが、我が家に戻ると急に明るい表情に変わりました。また、父が母の顔のマッサージをしていたので、しわも減り、ほんとうに別人のように明るくなっていました。」

織田姉妹によれば、介護をしていると大きな4つの変化が訪れるそうです。介護する人の態度が「戸惑い、拒否、あきらめ、受け入れ」の順で時間をかけながら変わってくるというのです。「『戸惑い』や『拒否』の段階で介護をしている人たちは、介護がとてつらく、苦しい状態です。しかし、長く介護していればいるほど、患者さんに感謝の気持ちが出てきます。長く介護するほど『ありがたい』という気持ちが出てくるんです。

最初の『戸惑い』や『拒否』の段階で患者さんが亡くなると、『つら

かった』とか『疲れた』という気持ちしか残りません。しかし、『受け入れ』の段階にある人たちは、患者さんと離れたくない、いつまでも一緒にいたいという気持ちになってきます。」

織田姉妹も最初は「何でこっちがやっただけなのに、分かってくれないのだろう」と自分の立場だけを考え、相手の気持ちを察することをしていなかったそうです。しかし、福音の教えのように、相手の気持ちを尊重するように心がけることで、ほんとうに相手がしてほしいと願うことを察することができるようになりました。母親との介護を通じて、何度も神様の教えを実感する経験をしました。

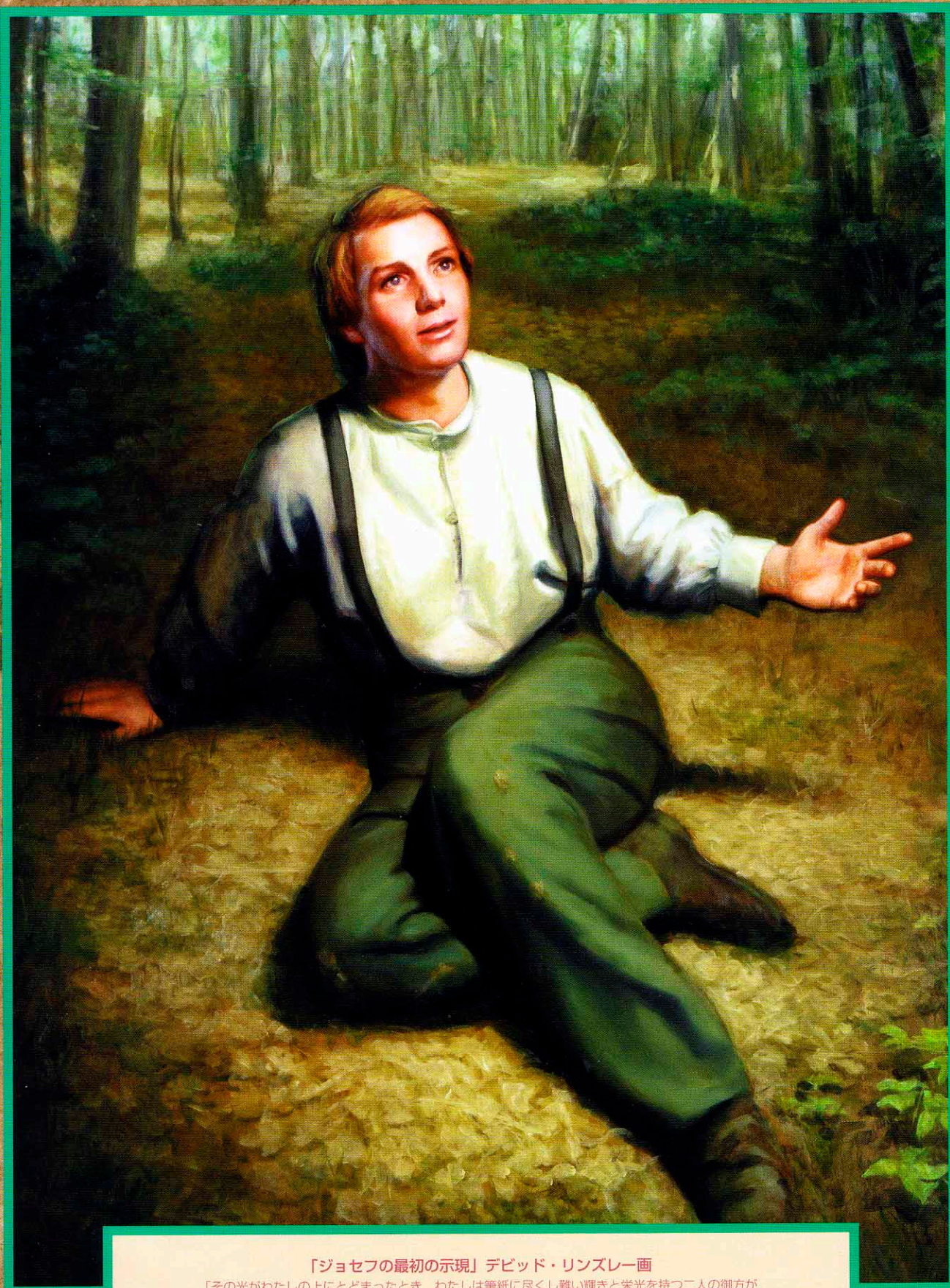
「食べ物飲み込みが悪くなり、細かいきざみ食、ミキサーにかけた流動食、ベビーフードなどをミックスさせたりして、毎食1時間くらいかけて食事をさせました。それでもむせるので、吸引器は必需品でした。むせたら肺炎を覚悟するように言われていたので、初めは食事の時間がいちばん緊張しましたが、慣れてくるに従って、母と過ごせるこの時間が、とても

貴重な幸福な時間に感じられ、いつまでも続いてほしいと願うようになりました。」

そして、介護を続けているうちに、いつの日か織田姉妹のお母さんは家族にとって特別な存在になっていきました。「最初の段階では大変だった介護が後半になるにつれ、母が天使のように思えてきたんです。何も分からないので、いつもニコニコしているんですが、こちらが理解を示さないと、その感情は母にも伝わります。言葉を交わさないのに気持ちが通じ合い、わたしたちの心を写すようなニコニコした天使でした。わたしだけではなく、家族全員が天使といるような気分でした。介護を通じて神様に試されていることが分かったら、だんだん母の悲しみが分かるようになり、母に少しでも平安な時間を過ごしてもらいたいという気持ちが出てきました。赤ちゃんが笑顔で家族に幸福をもたらしてくれるように、母の笑顔もまた、わたしたち家族に幸福をもたらしてくれました。いつの間にか母の笑顔を見るのがわたしたちの楽しみであり、生きがいとなっていきました。」



織田姉妹とお母さん。

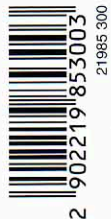


「ジョセフの最初の示現」デビッド・リンズレー画

「その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方が  
わたしの上の空中に立っておられるのを見た。」(ジョセフ・スミス―歴史1:17)



ブラジル・リオデジャネイロの  
若い女性たちは、  
ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が  
教会員に述べた次の勧告を  
真剣に受け止めている。  
「人々に手を差し伸べましょう。  
友達になりましょう。  
親切にしましょう。  
励ましましょう。  
この業、すなわち、  
主の業に対する彼らの信仰と  
知識を増し加えましょう。」  
「人々に手を差し伸べる  
リオの少女たち」10ページ参照



2 902219 853003

21985 300